

教 育 委 員 会

自己点検・評価報告書

平成 29 年 9 月



浜田市教育委員会

自己点検・評価に当たって

近年の教育を取り巻く環境の変化は大きく、社会情勢の要請から教育委員会制度の改正が行われ、教育行政に大きな変革をもたらしました。

平成 27 年度には、第 2 次浜田市総合振興計画及び浜田市教育大綱の策定等教育行政において重要な計画の策定を行い、新たな教育振興計画はこれら上位計画等との連動の強化を図り、市上位計画等の実現をより具現化するための実施計画（アクションプラン）として策定しており、教育委員会としては、本計画に沿って浜田市の教育振興を着実に推進し、教育行政の執行責任を果たしてまいります。

平成 28 年度は、この教育振興計画（平成 28 年度～平成 33 年度）の初年度の実施年度となりました。

教育委員会による自己点検及び評価は、その執行責任を果たすために必要な事務であります。この点検及び評価は、執行された学校教育や社会教育、スポーツ、文化財等の具体的な教育行政事務が、教育委員会が決定した基本方針に沿っているのか、それが時代の要請に応えた教育行政となっているのか、教育委員会自らが、その権限に属する事務の管理及び執行状況について点検及び評価を行うものです。

なお、この点検及び評価に関することは、教育行政の基本方針に関することなどとともに、教育長に委任できず、教育委員会自らが管理・執行する事務として位置づけられており（地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「地教行法」という。）第 25 条第 2 項）、その結果を議会に提出するとともに、公表することが義務づけられています（地教行法第 26 条）。

浜田市教育委員会の自己点検・評価は、平成 27 年度に策定した浜田市教育振興計画（平成 28 年度～平成 33 年度）の施策体系に基づいて点検・評価を行っています。施策体系にある主要施策と具体的取組一覧から、それぞれの事業について事業終了後、事務局から報告を受け、点検・評価を行い、その結果を、「教育委員会自己点検・評価結果報告書」のとおり取りまとめましたので、地教行法第 26 条の規定により報告します。

平成 29 年 9 月

浜田市教育委員会

《 目 次 》

	ページ
1 教育委員会自己点検・評価（総評）	1
2 浜田市教育振興計画事業進捗状況 教育委員会自己点検・評価項目一覧	9
I 学校教育の充実	
(1) 生きる力の育成	
① ふるさと郷育の推進 (生涯学習課)	10
② キャリア教育の推進 (学校教育課)	11
③ 自然体験活動の推進 (学校教育課)	12
④ 学力向上総合対策事業 (学校教育課)	13
⑤ 小中連携教育推進事業 (学校教育課)	14
⑥ 外国語指導助手の招致 (学校教育課)	15
⑦ 土曜学習支援事業 (生涯学習課)	16
⑧ 学校司書等配置事業 (学校教育課)	17
⑨ 学校支援員配置事業 (学校教育課)	18
⑩ 小中学校一斉学力調査等実施事業 (学校教育課)	19
⑪ ICT教育整備事業 (学校教育課)	20
⑫ 特色ある学校づくりの推進 (学校教育課)	21
⑬ 学校事務の共同実施 (学校教育課)	22
⑭ 学校施設整備事業 (教育総務課)	23
⑮ 学校統合計画策定 (教育総務課)	24
⑯ 児童生徒の安全で安心な環境の確保 (学校教育課)	25
⑰ 幼児教育の充実 (教育総務課)	26
⑱ 幼児教育の環境整備 (教育総務課)	27
(2) 一人ひとりを大切にする教育の推進	
① 児童生徒健全育成事業 (学校教育課)	28
② 問題行動、いじめ等の指導相談 (学校教育課)	29
③ 親学プログラムの実施 (生涯学習課)	30
④ 特別支援教育推進事業 (学校教育課)	31
⑤ 要保護・準要保護児童生徒就学援助 (学校教育課)	32
⑥ 人権意識高揚の推進 (人権同和教育室)	33

(3) 食育と体づくりの推進		
① 食育推進事業	(教育総務課)	34
② 学校給食での地産地消の推進	(教育総務課)	35
③ 学校体育大会支援事業	(学校教育課)	36
④ 学校保健・環境衛生の充実	(学校教育課)	37
II 家庭教育支援の推進		
(1) 家庭教育支援の充実		
① 親学プログラムの実施	(生涯学習課)	38
② 家庭教育支援チームの結成	(生涯学習課)	39
③ つなぐ、つながる事業 (三世代交流・通学合宿支援)	(生涯学習課)	40
④ 「家読 (うちどく)」の推進	(生涯学習課)	42
⑤ P T A活動との連携強化	(青少年サポートセンター)	43
(2) 青少年の健全育成		
① 関係協議会等への補助事業	(青少年サポートセンター)	44
② 青少年団体育成補助事業	(青少年サポートセンター)	45
③ 青少年自立支援事業	(青少年サポートセンター)	46
III 社会教育の推進		
(1) ふるさと郷育の推進		
① 「浜田市の人物読本」の活用	(生涯学習課)	47
② ふるさと再発見事業	(生涯学習課)	48
③ ふるさと教育推進事業	(生涯学習課)	50
④ 自然体験活動の推進	(生涯学習課)	51
⑤ 土曜学習支援事業	(生涯学習課)	53
⑥ つなぐ、つながる事業 (三世代交流・通学合宿支援)	(生涯学習課)	54
⑦ 学校支援・放課後支援・家庭教育支援事業	(生涯学習課)	56
(2) 公民館における人材育成と拠点整備		
① 公民館活動推進事業	(生涯学習課)	58
② 地域課題の解決支援事業	(生涯学習課)	59
③ 人権・同和問題学習活動	(人権同和教育室)	60

	ページ
④ 公民館施設整備事業 (生涯学習課)	61
 (3) 図書館サービスの充実	
① 多様な分野の図書の充実 (中央図書館)	62
② レファレンスサービスの充実 (中央図書館)	63
③ 「特集展示」コーナーの充実 (中央図書館)	64
④ ボランティア登録者数の増加 (中央図書館)	65
⑤ 移動図書館車・簡易閲覧所の運用 (中央図書館)	66
⑥ 子どもの読書週間、秋の読書週間での読書活動推進事業 (中央図書館)	67
⑦ 電子書籍などの新たな情報への対応 (中央図書館)	68
 IV 生涯スポーツの振興	
(1) スポーツ・レクリエーション活動の推進	
① 総合スポーツ大会の開催 (生涯学習課)	69
② 浜田市体育協会によるスポーツ振興事業 (生涯学習課)	70
③ 「体操のまち 浜田」振興事業 (生涯学習課)	71
 (2) スポーツ精神の高揚と競技力の向上	
① 「JFA夢の教室」の開催 (生涯学習課)	72
② トップアスリートなどの各種スポーツ教室の開催 (生涯学習課)	74
 (3) スポーツ・レクリエーション環境の整備	
① 学校開放事業 (生涯学習課)	75
② 運動施設整備事業 (生涯学習課)	76
③ 軽スポーツ活動の推進 (生涯学習課)	77
 V 歴史・文化の伝承と創造	
(1) 芸術・文化の振興	
① 石央文化ホールの管理運営 (文化振興課)	78
② 世界こども美術館の管理運営 (文化振興課)	79
③ 石正美術館の管理運営 (文化振興課)	80
④ 市民による文化活動への支援 (文化振興課)	81
⑤ 子どもを育む文化振興 (文化振興課)	82

(2) 伝統文化の保存と継承		
① 伝統文化の保存と継承	(文化振興課) ……	83
(3) 文化財の調査・保存と活用		
① 文化財の収集・保存	(文化振興課) ……	84
② 文化財の活用	(文化振興課) ……	85
③ 各指定文化財の管理	(文化振興課) ……	86
④ 市内遺跡発掘調査事業	(文化振興課) ……	87
⑤ 市誌編纂事業	(文化振興課) ……	88
(4) 地域文化の交流拠点づくり		
① (仮称) 浜田歴史神楽資料館整備事業	(文化振興課) ……	89
② 浜田城周辺整備事業	(文化振興課) ……	90
3 浜田市教育振興計画の目標達成度について	……	91

空 白

1. 教育委員会自己点検・評価（総評）

空 白

1. 教育委員会自己点検・評価（総評）

浜田市教育委員会の自己点検・評価は、平成 27 年度に策定した浜田市教育振興計画（平成 28 年度～平成 33 年度）の施策体系に基づいて点検・評価を行っている。

浜田市教育振興計画の基本理念は、「人権尊重」、「共生」、「学校、家庭、地域の連動」の 3 つの「教育推進」により形作られており、この 3 点からなる基本理念を体現するための 5 本の施策の柱である「Ⅰ 学校教育の充実」、「Ⅱ 家庭教育支援の推進」、「Ⅲ 社会教育の推進」、「Ⅳ 生涯スポーツの振興」、「Ⅴ 歴史・文化の伝承と創造」について、総括評価を行う。



I 学校教育の充実

学校教育の充実については、将来を担う子どもの学力や豊かな心、健やかな体力を育む役割を果たしており、「生きる力」を育成することが重要となっていることから生きる力の育成への取組、また、各学校では、学力の向上を図るとともに、子どもの能力や興味を引き出すよう、これまで以上に一人ひとりに応じた指導が重要となっていることを踏まえ、一人ひとりを大切にす教育の推進の取組に努めた。

生きる力の育成の取組みとして、ふるさと郷育の推進を図るため、引き続き、ふるさと教育の「教」の字を「郷里」の「郷」の字に置き換えた「郷育」という言葉を用いてふるさと教育を推進した。また、学力の向上に向けた取組を行うこととし、「浜田市小中連携基本方針」に基づき、中学校区で一体となった生活習慣づくり、夢や希望に向かって努力する子どもの育成、学校不適應を考慮して変化に対応できる子どもの育成、ふるさとを誇りに思う子どもの育成等に取り組んだところであるが、地域、学校、家庭がそれぞれの役割を明確化し、一体となって取り組んでいかなければならない。

一人ひとりを大切にす教育の推進については、浜田市教育委員会として、特にいじめ問題に対し、いじめは人の尊厳に関わる重大な問題であり、絶対に許されない行為であることを強く認識しているところであり、いじめ問題の根絶に取り組む必要がある。

環境整備の取組について、子どもの教育環境を整えることを最優先とした学校統合計画に基づく学校統合については、前計画における学校統合については、統合対象校区全てから理解を得られて平成 27 年度末までに実施することができたが、今後の児童・生徒の減少、中学校の部活動のあり方、さらに校区の見直し等の諸課題はなお残っている状況にある。教育委員会としては、教育環境の整備を最優先に考えつつも、公共施設再配置計画等の行財政改革の観点も踏まえた施設の整理を行っていくことが重要である。

II 家庭教育支援の推進

家庭教育支援の推進については、家庭環境の変化やライフスタイルの多様化に伴い、家庭や地域における教育力の低下が懸念されているところであり、地域ぐるみで子どもの育ちを支える取組を推進する必要性、また、子どもたちを取り巻く環境の変化を受け、行政による様々な教育施策の展開・推進とともに、学校、家庭及び

地域住民がそれぞれの役割と責任を自覚しつつ、地域全体で子どもの育ちを支えるための連携・協働の取組の充実が必要である現状を踏まえ、家庭教育支援の充実、青少年の健全育成に努めた。

家庭教育支援の充実については、親学プログラム等親同士の交流を通して「親としての役割」や「子どもとのかかわり方」の気付きを促す取組を進めているが、多くの保護者に参加してもらうことが必要であり、支援体制についても、教育委員会事務局内の課を越えた連携や子育て部局等との連携を図っていく必要がある。

青少年の健全育成については、PTAとの連携強化、日常生活を送る上で様々な困難を抱える子どもから若者に対して、社会参加や就学・就労等社会的自立に向けた支援の継続が必要である。

Ⅲ 社会教育の推進

社会教育の推進については、子どもたちの自然体験や社会経験の不足等を要因として、善悪の判断や規範意識の低下など、家庭や地域での教育力の低下が懸念される中、地域住民がより良く暮らすため、地域課題の解決に向けた学びを通して、地域社会の発展、活性化に寄与する人材を育成することが求められていることを踏まえ、ふるさと郷育の推進、公民館における人材育成と拠点整備、図書館サービスの充実の取組を行った。

平成28年度においては、平成27年度に作成した小学4年生を対象にした補助教材「浜田市の人物読本 ふるさとの50人」を活用し、ふるさとへの愛着醸成を図る等重点的に取組を進めた。

また、公民館活動についても、地域住民による特色ある取組を支援し、主体的に地域課題の解決に取組み、地域に根ざした公民館活動の推進を図るため、学校支援活動、土曜日の教育活動、放課後子ども教室、家庭教育支援活動や地域が主体となった活動等の多様な活動の場として、より多くの住民の参画を促す取組を行った。

人的・物的・制度的・歴史的制約等の課題も多く、これらの整理を行うことが、公民館における人材育成と拠点整備につながるものと考える。

図書館機能の充実については、中央図書館、各分館及び移動図書館を含め、地域課題や地域住民のニーズに適した蔵書の充実に取り組みなど浜田市全域の図書館サービスの整備・拡大に努めた。今後も引き続き、市民、特に子どもの読書活動普及に取り組むとともに、人的サービスの更なる向上を図り、いつでもどこでも、気

軽に利用できる市民の施設を心がけていく必要がある。

IV 生涯スポーツの振興

生涯スポーツの振興については、スポーツに対するニーズや関わり方が高度化・多様化している中で、それぞれの世代に応じた心身の健康を養うスポーツ・レクリエーション活動の推進、スポーツ少年団や競技団体等と連携したスポーツ精神の高揚と競技力の向上、気軽にスポーツに親しむことのできるスポーツ・レクリエーション環境整備等の取組を行った。

平成 28 年度は、8 月 2 日から 8 月 6 日までの間に開催された全国高等学校総合体育大会（体操競技大会）に浜田高等学校の男女体操団体がアベック出場を果たすなどの実績を鑑みる中で、浜田市総合スポーツ大会、トップアスリートを招いた教室開催、総合型地域スポーツクラブの設置等、拡大には相応の財政負担を伴うことから大きな発展はないものの、これら取組は着実に定着してきている。

また、運動施設の改修・整備等については、多額の経費を要する場合もあり、慎重に進める必要がある。類似施設の統廃合を含め、将来のスポーツ施設整備及び利活用の方針を十分に検討し、取り組むことが重要である。

浜田市体育協会及び浜田市スポーツ少年団等のスポーツ関係団体への支援及び協力による市のスポーツ振興の効果は大きく、引き続き、連携を深め、財源上の制約に縛られなくても果たせるような工夫を持って、スポーツの振興を図る必要があると考える。

V 歴史・文化の伝承と創造

芸術文化の振興については、伝統文化の保存・継承、芸術・文化活動の活性化、芸術の鑑賞機会や発表の場の提供等の取組を行い、市内の多種多様な文化・芸術活動等を行う個人や各種団体のそれぞれの活発な活動を応援し、連携を図り、芸術文化の振興・発展に努めた。

また、石央文化ホール、石正美術館、世界こども美術館など拠点施設は、指定管理者により運営されており、その管理運営及び事業企画には指定管理者の努力がうかがえるが、利用者が減少傾向であることから、今後の市の芸術文化の振興の方向

性を考える中において、中・長期的な展望を踏まえた教育委員会の主体的な展開と指定管理者の一層の協働が必要であると考えます。

文化財行政については、専門機関や識見者と連携して貴重な文化財の調査研究、埋蔵文化財の分布及び発掘調査、文化財の保護活用、資料館等の活用等の取組を行うとともに、貴重な文化遺産の保護を適切に行い、後世へ確実に継承すること、及び情報の収集、発信に努めた。

今後、収集した情報等をまとめ、提供・発信するためには、市誌編纂の方向性や資料館のあり方等を充分かつ慎重に検討していくことが必要である。

空 白

2. 浜田市教育振興計画事業進捗状況 教育委員会自己点検・評価項目一覧

教育委員会自己点検・評価表

No. 1

点 検 ・ 評 価 項 目		
浜 田 市 教育振興計画 における項目	施策の柱	I 学校教育の充実
	主要施策	(1) 生きる力の育成
		郷育
具 体 的 取 組	① ふるさと郷育の推進	
担 当 課	生涯学習課	
内 容	ふるさと教育の「教」の字を「郷里」の「郷」の字に置き換えた「ふるさと郷育（きょういく）」を推進し、子どもたちに、ふるさとに愛着や誇りを持たせ、将来地元で働きたい、地元に住みたい、という気持ちを育む。地域の「ひと・もの・こと」を活用した教育活動を通じて、ふるさとを愛する心が育つよう地域ぐるみで子どもを育む取組を推進する。	
28 年 度 の 目 標	<p>「浜田市の人物読本 ふるさとの50人」の活用事業、ふるさと再発見事業、つなぐ、つながる事業、ふるさと教育推進事業(県委託事業)等の事業を実施する。</p> <p>また、中学校区毎に学校、家庭、地域のネットワーク体制を構築し、地域ぐるみで子どもを育む体制を整備する。</p>	
28 年 度 の 実 績	<p>1 「浜田市の人物読本 ふるさとの50人」の活用事業 全ての小学校で「ふるさとの50人」を活用した授業、取組を実施。</p> <p>2 ふるさと再発見事業 全ての公民館で実施。</p> <p>3 つなぐ、つながる事業 三世代交流事業15公民館で実施。</p> <p>4 通学合宿事業 4公民館で実施。</p> <p>5 ふるさと教育推進事業（県委託事業） 全ての小中学校で、教育課程の中で地域の「ひと・もの・こと」を活用した教育活動を年間35時間以上実施。</p> <p>6 ネットワーク体制の構築 9中学校区のうち、8中学校区でネットワーク体制を構築。 (※構築できなかった中学校区については、学校支援ボランティア会議等は行っていたがネットワーク体制の構築までには至らなかった。)</p>	
教育委員会の評価	<p>公民館や地域のボランティアの協力を得て、子どもたちに、ふるさとに対する愛着や誇りを涵養する取組が教育活動に定着しつつあり、現在、小中連携教育の中で、ふるさと教育全体計画、年間指導計画を作成している。今以上に子ども達が将来、浜田で働きたい、住みたいと感じるようになるためには、地域特性を踏まえたキャリア教育の視点から、中学校区のネットワーク会議で取組の効果の検証、改善を行うPDCAサイクルの構築が必要である。</p> <p>まず、残る1中学校区のネットワーク体制を構築するとともに、内容の改善を図りつつふるさと郷育を推進したい。</p>	

教育委員会自己点検・評価表

No. 2

点 検 ・ 評 価 項 目		
浜 田 市 教育振興計画 における項目	施策の柱	I 学校教育の充実
	主要施策	(1) 生きる力の育成
		郷育
具 体 的 取 組	② キャリア教育の推進	
担 当 課	学校教育課	
内 容	1 キャリア教育の必要性について教職員への啓発を図る。 2 中学校の職場体験活動を広く市民に知らせるための啓発活動を行う。 3 児童生徒が将来に対する夢や希望をもち、学習意欲が高まるようキャリア教育に視点をあてた授業を行う。	
28 年 度 の 目 標	キャリア教育推進ネットワークを中学校区に構築する。	
28 年 度 の 実 績	1 キャリア教育に関する授業の訪問指導を行った。 (1) 平成28年6月20日(月) 旭中学校 3年 道徳「目標の実現か 信頼関係か」 (2) 平成28年6月21日(火) 旭小学校 4年 道徳「自分のよさを見つけて伸ばす」 (3) 平成28年7月7日(木) 波佐小学校 5,6年 総合的な学習の時間「金城の特産品調査隊」 (4) 平成28年9月6日(火) 旭小学校 5年 道徳「相手の気持ちを大切に」 (5) 平成28年9月21日(水) 金城中学校 2年 特活「学び方を考えよう」 2 職場体験活動を受け入れていただいた事業所に幟旗を掲げることで、中学生への意欲の喚起と市民へのアピールを行った。	
教育委員会の評価	キャリア教育の教職員に対する啓発については、文書等で行っており、既に意識は高い。児童生徒が将来に対する夢や希望をもち、学習意欲が高まるようにキャリア教育に視点をあてた授業については、各教科を通じた取組が各校でなされている。 また、キャリア教育島根県大会の実施校となった旭中、旭小及び金城中が中心となって研修を深め、全体計画や年間指導計画等についても、提案的に発信を行った。 各中学校区での小中連携教育を活用し、総合的な学習やふるさと教育の全体計画、年間指導計画においてキャリア教育との関連を明らかにするとともに、毎年度見直しをしながら中学校区での統一的な取組を構築している。	

教育委員会自己点検・評価表

No. 3

点 検 ・ 評 価 項 目		
浜 田 市 教育振興計画 における項目	施策の柱	I 学校教育の充実
	主要施策	(1) 生きる力の育成
		郷育
具 体 的 取 組	③ 自然体験活動の推進	
担 当 課	学校教育課	
内 容	<p>子どもたちが、地域の豊かな自然にふれあう体験などを通して、自然に感動する心、ふるさとを愛する心の育成を図る。</p> <p>また、宿泊を含む体験活動、集団活動を行うことで、人間関係のつくり方、公衆道徳、規範意識などを身につけるとともに、感動する心、コミュニケーション力、社会性、思いやりの心などの生きる力を育む。</p>	
28 年 度 の 目 標	<p>子どもたちが、地元の地域資源に親しみながら、日常では経験できない宿泊を含む体験活動、集団活動を行うことで、人間関係のつくり方、公衆道徳、規範意識などを身につけるとともに、感動する心、コミュニケーション力、社会性、思いやりの心などの生きる力を育む一助となるように、夏休み中に2泊3日の宿泊体験活動を計画実施する。</p>	
28 年 度 の 実 績	<p>1 浜田地区広域行政組合、江津市教育委員会と連携し、浜田・江津市内の小学5,6年生を対象とした浜田広域圏子ども交流事業「夏休み！ふるさと体験・友だちづくり活動」を実施。</p> <p>(1) 実施期間 平成28年8月10日(水)～8月12日(金) (2泊3日)</p> <p>(2) 実施場所 石見海浜公園、県立少年自然の家、金城町ほか</p> <p>(3) 主な内容 SUP体験、水鉄砲作りと川遊び 肝試し(県大生考案)、JR三江線の旅 沢登り体験(金城町若生) 民泊、農作業体験、竹とんぼづくり ほか</p> <p>(4) 参加人数 小学5,6年生 14校 49人(浜田市 32人、江津市 17人) 県大生ボランティアスタッフ 11人</p>	
教育委員会の評価	<p>子どもたちが、地元の地域資源に触れ、民泊体験などを通じてふるさとの良さを実感する良い機会となった。</p> <p>また、人間関係の作り方の習得やコミュニケーション力の育成については、各班ごとに協力をしながら体験を行う過程で育成された。</p> <p>そして、民泊や体験活動を楽しみながら安全に行う過程で指導者の指示やルールに従うこと、挨拶の重要性を学ぶ機会となった。</p>	

教育委員会自己点検・評価表

No. 4

点 検 ・ 評 価 項 目		
浜 田 市	施策の柱	I 学校教育の充実
教育振興計画 における項目	主要施策	(1) 生きる力の育成 学力向上
具 体 的 取 組		④ 学力向上総合対策事業
担 当 課		学校教育課
内 容		1 全ての小学校と中学校へ年3回の学校訪問指導を行う。 2 市指導主事による国語、算数・数学、道徳、キャリア教育、学校図書館活用教育、協調学習の手法による授業について学校訪問指導を行い、教員の指導力の向上を図る。 3 学力向上総合対策事業の一貫として教員の授業力向上を目指した研修会を開催する。
28 年 度 の 目 標		全国学力・学習状況調査における国語A・B、算数・数学A・B問題の浜田市平均正答率が県平均を上回る。
28 年 度 の 実 績		1 全ての小学校と中学校へ年3回の学校訪問指導を行った。1回目は、学力向上の取組を中心に28年度の計画の聞き取りや情報提供を行った。2回目は、市指導主事による授業研究訪問指導、3回目は、県学力調査結果をもとに、全国調査結果からの課題の検証と今後の取組についての聞き取り及び指導・助言を行った。また、全国調査結果を受けて、県教委と連携した全小学校への算数の訪問指導を行った。 2 教員の授業力向上を目指した研修会を開催した。 (1) コアティーチャーの研修 3人の教員を福井市に派遣 ア 平成28年6月20日(月)～6月24日(金) イ コアティーチャーによる公開授業及び福井市視察報告会 3回 (2) スーパーティーチャー示範授業(3年国語)による授業力向上研修 ア 平成28年7月21日(木) 125人参加 会場 国府小学校 イ 講師 筑波大学附属小学校 教諭 二瓶 弘行 氏 (3) スーパーティーチャー示範授業(6年算数)による授業力向上研修 ア 平成28年7月22日(金) 89人参加 会場長浜小学校 イ 講師 IPU環太平洋大学 准教授 前田 一誠 氏 (4) 新しい学びプロジェクト(協調学習) ア 研修会 平成28年8月17日(水) 18人参加 8月18日(木) 18人参加 イ 講師 東京大学 大学発教育支援コンソーシアム推進機構(CoREF) 特任助教 齋藤 萌木 氏
教育委員会の評価		児童生徒が課題発見や課題解決に向けて主体的、対話的に取組み、深い学びが成立するような授業改善が求められている。研修により教員に具体的なイメージを持ってもらうことがその推進力になる。協調学習等の研修会についても、小中学校に呼びかけ希望者を募り、安芸太田町で行われた研修会に参加した。 今後とも、研修会、示範授業、学校訪問指導を通じて学力向上を図る必要がある。

教育委員会自己点検・評価表

No. 5

点 検 ・ 評 価 項 目		
浜 田 市	施策の柱	I 学校教育の充実
教育振興計画 における項目	主要施策	(1) 生きる力の育成 学力向上
具 体 的 取 組		⑤ 小中連携教育推進事業
担 当 課		学校教育課
内 容		浜田市小中連携教育基本方針に基づき、小中連携教育推進委員会の方 向性を定め、9つの中学校ブロックで、それぞれの実態に合わせた小中 連携教育を推進する。
28 年 度 の 目 標		1 各中学校区（9中学校区）をブロックとして、地域や学校の実態 に応じた小中連携教育を推進する。 2 小中連携教育の推進委員会、ブロック代表者会において今年度の 方針を決めて各ブロックの特色を出しつつ、全体としても統一性 のある取組となるようにする。 3 各ブロック内における取組をまとめる。リーフレットを作成し、 浜田市のホームページで紹介する。
28 年 度 の 実 績		1 「浜田市小中連携教育基本方針」に基づき、各中学校ブロックで、 それぞれの実態にあわせた小中連携教育を推進した。 2 基本方針に基づく以下の4つの取組について、各ブロックの成果と 課題を実践記録集としてまとめた。また、リーフレットにまとめ、 全保護者に配布するとともに浜田市のホームページにもアップした。 (1) 中学校区で一体となった生活習慣づくり (2) 学習意欲を高め、夢や希望に向かって努力する子どもの育成 (3) 学校不適応を考慮し、変化に対応できる子どもの育成 (4) ふるさとを愛し、ふるさとを誇りに思う子どもの育成
教育委員会の評価		中学校区で一体となった生活習慣づくりについては、2時間以上テレ ビゲームをする割合は減少しているものの、家庭学習時間の増加には 至っておらず、継続した取組が必要である。 学ぶ意欲を高め、夢や希望に向かって努力する子どもの育成について は、「将来の夢や希望をもっている」児童生徒の割合については増えて きているものの、学力調査の結果に結びついていない点があり、夢と学 習をつなげる取組が必要である。 学校不適応を考慮し、変化に対応できる子どもの育成については自分 には良いところがあると思っている子どもの割合が中学校で減少して おり、中1ギャップ解消に向けた取組等の継続が必要である。 ふるさとを愛し、ふるさとを誇りに思う子どもの育成では、中学校区 でふるさと教育が体系的に取り組みられ、総合的な学習の時間に、自分 で調べ学習に取り組んでいると思う子どもの割合が徐々に増えてきて いる。

教育委員会自己点検・評価表

No. 6

点 検 ・ 評 価 項 目		
浜 田 市 教育振興計画 における項目	施策の柱	I 学校教育の充実
	主要施策	(1) 生きる力の育成
		学力向上
具 体 的 取 組	⑥ 外国語指導助手の招致	
担 当 課	学校教育課	
内 容	1 中学校の英語教育及び国際理解教育の充実を図るため、外国語指導助手（ALT）を配置して、担当教員の指導の下に授業を行う。 2 小学校の外国語活動や国際理解教育を推進するため、外国語指導助手（ALT）を配置して、担当教員の指導の下に授業を行う。	
28 年 度 の 目 標	1 小中学校に授業時数に応じて外国語指導助手を配置する。 2 外国語主導助手は、ネイティブスピーカーであることを活かして、児童生徒の異文化への興味関心を引き出し、学習意欲を高めるとともに、担当教員と連携を図りつつ、言語モデルの提示、音声、表現、文法等のチェックを行う。	
28 年 度 の 実 績	外国語指導助手は、中学校の英語教育の充実に努めるとともに、浜田市中学校英語キャンプの開催、国際交流事業など幅広い活動を展開した。 また、小学校の外国語活動は、小学校5・6年生で担任教諭とのチーム・ティーチングによる年間35時間の外国語活動を実施した。 1 外国語指導助手（ALT） 7人	
教育委員会の評価	小中学校ともに教員と連携を図りながら、ネイティブスピーカーであることを活かして英語に対する興味関心を高め、自然に英語の発音、表現及び文法の指導を行い、コミュニケーション能力を高めた。 また、英語キャンプや国際交流事業だけでなく、給食の時間や休み時間にも積極的に子どもたちと関わり、自然に会話をする中で、お互いの文化の違いに気づいたり、相手の文化の良さを認めたりする機会を提供した。	

教育委員会自己点検・評価表

No. 7

点 検 ・ 評 価 項 目		
浜 田 市	施策の柱	I 学校教育の充実
教育振興計画 における項目	主要施策	(1) 生きる力の育成 学力向上
具 体 的 取 組		⑦ 土曜学習支援事業
担 当 課		生涯学習課
内 容		浜田市の児童・生徒を地域で育むことに併せ、学力向上に資するため、土曜日を利用して児童・生徒の学習の場を提供する。浜田市立中央図書館多目的室を利用し、希望する中学生を対象に教育職員免許所有者等による自学（数学・英語）支援と、公民館で小学生を中心とした学習支援の2つの取組を行う。
28 年 度 の 目 標		公民館等が主体となって行う土曜学習の機会を増やすことにより、より多くの小中学生の土曜日の充実、家庭学習の機会を提供し、学習習慣の定着、学力向上を図る。
28 年 度 の 実 績		<p>1 浜田市立中央図書館（数学・英語） 実施回数は増加したが、参加者数は減少となった。 このため、試行的に午後開催、授業形式での開催を行った。</p> <p>(1) 自学自習によりわからないところを講師に質問する形式 (2) 実施回数 19回 [平成27年度 15回] (3) 延べ参加人数 227人 [平成27年度 326人] (4) 登録生徒数 49人 (5) 講師数 15人（教員OB 7人、大学生 8人）</p> <p>2 公民館実施館数 1館（美川公民館 小学生を対象とした英語教室） 実施公民館数が1館減少した。 [平成27年度 2館]</p>
教育委員会の評価		<p>中央図書館の生徒の出席状況を見ると第1回目は15名、第2回目は17名であるが、第3回目以降は10名を割り、出席者が1名の回もあった。3年生は2月まで一定数が出席するものの2月以降は減少した。1, 2年生は9月から出席が減少したが、2月からわずかに回復した。また、学習内容を自分で決めて、分からないところを自分から質問する生徒がいる一方で、自習内容を自分では決められない生徒も見受けられた。</p> <p>こうしたことから、より多くの小中学生が参加できるようにするとともに、学力向上に資するよう次の検討が必要である。</p> <p>(1) 部活動のない午後開催の検討 (2) 何を学習して良いか分からない生徒にも役立つ授業形式の検討 (3) 参加しやすいと思われる長期休業中開催の検討</p>

教育委員会自己点検・評価表

No. 8

点 検 ・ 評 価 項 目		
浜 田 市 教育振興計画 における項目	施策の柱	I 学校教育の充実
	主要施策	(1) 生きる力の育成 学力向上
具 体 的 取 組		⑧ 学校司書等配置事業
担 当 課		学校教育課
内 容	1 学校図書館の充実…学校図書費の増額、蔵書の整備、施設整備を行う。 2 学校司書、学校図書館支援員を配置する。 3 読書習慣の定着…読み聞かせ、朝読書等を行い、読書習慣の定着を図る。	
28 年 度 の 目 標	1 浜田市学校図書館活用教育研究指定校を4校に指定し、学校図書館を活用した調べ学習などの探求的な学習等の取組を推進する。 2 学校司書、学校図書館支援員を配置し、研修を通して資質・能力の育成を図る。 3 授業で活用できる書籍資料の収集。	
28 年 度 の 実 績	1 専任の指導主事と嘱託職員を配置し、学校訪問指導及び学校訪問を通して指導・支援を行った。学校図書館だよりの発行や研修の実施により学校との連携及び学校司書、学校図書館支援員の資質・能力の育成を図った。 (1) 調べる学習研修会 6月1日(水) (2) 学校図書館活用教育研修会 8月19日(金) (3) 学校司書等連絡会 4月28日(木)、10月7日(金)、11月15日(火)、1月26日(木) 2 浜田市学校図書館活用教育研究指定校(原井小・松原小・国府小・弥栄中)での公開授業 計16回 3 調べる学習応援講座の実施 7月26日(火)、27日(水) 参加者 20人 4 浜田市小中学校 調べる学習コンクールの実施 応募作品 189点、校内審査対象作品 1,499点 5 学校司書、学校図書館支援員は前年度に引き続き全小中学校に配置した。 6 図書の貸出冊数は小学生1人当たり平均66冊(前年度60冊)、中学生1人当たり平均15冊(前年度15冊)であった。	
教育委員会の評価	研究指定校では図書館活用の研究を通して学校司書や司書教諭との連携がより図られるようになった。また、公開授業等の実施により他校への波及効果も認められる。 調べる学習応援講座は、学校司書や司書教諭の資質・能力の向上に役立つとともに、調べる学習の奨励にも効果があった。また、研究指定校の研究や研修会等を通じて授業で活用できる書籍資料やワークシートが蓄積されてきている。ポプラディアネット(電子図鑑)の導入により、「教師のいい授業を支える学校図書館」としての役割も充実してきている。	

教育委員会自己点検・評価表

No. 9

点 検 ・ 評 価 項 目		
浜 田 市 教育振興計画 における項目	施策の柱	I 学校教育の充実
	主要施策	(1) 生きる力の育成 学力向上
具 体 的 取 組		⑨ 学校支援員配置事業
担 当 課		学校教育課
内 容		小中学校に学校支援員を配置し、特別な支援を要する児童生徒の支援を行う。 また、該当校が実施する放課後学習会に県立大学生を学習支援員として派遣する。
28 年 度 の 目 標		特別な支援を必要とする児童生徒の割合は増加傾向にあるので、児童生徒の実態にあわせて適切な人員を配置を行うとともに、研修会により学校支援員の資質の向上を図る。 また、放課後学習会が学力向上に寄与するように、適切な県立大学生の派遣を行う。
28 年 度 の 実 績		1 学校支援員の配置 (1) 配置校 24校 (小学校 16校、中学校 8校) (2) 配置数 延べ 55人 (小学校 33人、中学校 2人) (3) 研修会 ア 日時 6月8日 (水) 13時30分～16時30分 イ 場所 中央図書館 参加者 25人 ウ 内容 「特別な支援を要する児童生徒への関わり方について」 エ 講師 指導主事 鶴原 芳子 氏 2 大学生による学習支援 (1) 実施延べ日数 107日、延べ従事者数 292人 (2) 小学校2校 松原小学校、三隅小学校 (3) 中学校5校 第一中学校、第二中学校、第三中学校、 浜田東中学校、金城中学校
教育委員会の評価		学校支援員の配置は、特別な配慮を要する児童生徒等の情緒の安定と授業に向かう意欲の向上、学級運営の安定化に大きく寄与している。また、平成26年度から実施している学校支援員研修会により資質の向上が図られつつある。しかし、人員の確保と更なる資質の向上が課題である。 島根県立大学生学習支援事業は、生徒が年齢の近い大学生から刺激を受けて学習意欲の向上も見られる。一方、大学生の派遣にあたっては、適切な人材確保及び学校への移動手手段の確保等について引き続き検討する必要がある。

教育委員会自己点検・評価表

No. 10

点 検 ・ 評 価 項 目		
浜 田 市	施策の柱	I 学校教育の充実
教育振興計画 における項目	主要施策	(1) 生きる力の育成 学力向上
具 体 的 取 組		⑩ 小中学校一斉学力調査等実施事業
担 当 課		学校教育課
内 容		1 昨年度の学力調査結果からの課題（家庭学習の充実・適正なメディアとの関わり・教員の授業力向上）に基づき、学力総合対策事業に取り組む。 2 市、各学校で学力調査結果を分析する。また、全ての小中学校を訪問し、学力向上に向けた課題と対策について聞き取りを行い、指導、助言する。
28 年 度 の 目 標		4月の全国学力調査、12月の島根県学力調査を活用したPDCAサイクルにより取組の改善を行い、学力向上を図る。
28 年 度 の 実 績		1 家庭学習の充実のために、家庭学習ノートコンテストを実施。学習内容の定着を図るため、学習プリント配信システムを活用し、学校の要望により学習プリントを印刷して配布した。 2 全国学力調査の自校採点をもとに、各校での分析・対策に係る学校訪問を6、7月に実施し、島根県学力調査結果をもとに、各校での分析・対策に係る学校訪問を2月に実施し、今後の対応等の聞き取り及び指導・助言を行った。 (教員の授業力向上については、学力総合対策事業に記載)
教育委員会の評価		1 全国学力調査の自校採点では、解答類型を求めなかったが、各校とも自発的に県の分析シートを用いて、早期の課題把握に努めており、分析方法についても共通理解が図られてきた。 2 教育委員学校訪問において学力向上対策をテーマとして校長と意見交換をおこなった。教育委員会の方針を示すとともに分析の視点や今後の方向性について有意義な協議ができた。 3 学力調査を行う意義や知・徳・体の調和のとれた目指すべき子ども像を地域、学校、家庭、PTA等と共有をするとともに、実現するための役割分担を適切に行うことが大切である。

教育委員会自己点検・評価表

No. 11

点 検 ・ 評 価 項 目		
浜 田 市 教育振興計画 における項目	施策の柱	I 学校教育の充実
	主要施策	(1) 生きる力の育成
		教育環境
具 体 的 取 組	⑪ ICT教育整備事業	
担 当 課	学校教育課	
内 容	インターネットや情報機器を有効に活用し、学力向上のため分かりやすい授業の実践に取り組むとともに、情報モラル教育を推進する。	
28 年 度 の 目 標	ICT機器を活用した教育を推進するため、ICT機器活用教育研究指定校を選定し、研究を行う。	
28 年 度 の 実 績	<ol style="list-style-type: none"> 1 2年目となるICT機器活用教育研究指定校（国府小学校、美川小学校）では、ICT機器を活用した公開授業を展開し、その成果をまとめることができた。 2 小学校のパソコン教室に配置したパソコン更新に当たって、タブレットパソコン及び授業支援ソフトを整備した。また、教員に授業支援ソフト等の操作研修を行い、授業活用の促進に努めた。 3 図書館活用教育に関係して、ポプラディアネット（電子図鑑）を学校貸出用タブレットに導入して、調べ学習等で利用した。 4 情報モラル教育については、小中連携教育の中で、メディア接触について、啓発活動を実施した。 	
教育委員会の評価	<p>タブレットパソコン及び授業支援ソフト（ビデオ撮影・放映機能）を活用した公開授業が行われるなど、タブレットパソコンを積極的に授業に活かす取組が早速始められた。また、学校図書館活用教育では、図書（紙媒体）とポプラディアネット（電子図鑑）のそれぞれの特性を活かした調べ学習の公開授業が行われており、情報リテラシーの醸成を図ることができた。</p> <p>情報モラル教育については、SNSやLINEなどで課題が発生しており、教職員が最新の情報を得るとともに、児童生徒とその保護者に対してネットの適正な利用と注意事項について引き続き啓発を行う必要がある。</p>	

教育委員会自己点検・評価表

No. 12

点 検 ・ 評 価 項 目																														
浜 田 市	施策の柱	I 学校教育の充実																												
教育振興計画 における項目	主要施策	(1) 生きる力の育成																												
		教育環境																												
具 体 的 取 組		⑫ 特色ある学校づくりの推進																												
担 当 課		学校教育課																												
内 容		1 学校及び地域の特性を活かした特色ある学校づくり事業を推進するために次の事業に係る経費を交付する。 (1) 学力向上を図るための事業に係る経費 (2) 総合的な学習の時間及び体験事業に係る経費 (3) スポーツ及び芸術活動事業に係る経費 (4) ボランティア活動事業に係る経費 (5) 中学校校区等の複数の学校による合同事業に係る経費 (6) その他学校運営の円滑化を図るための事業に係る経費																												
28 年 度 の 目 標		学校及び地域の特性を踏まえた校長の学校経営方針に基づき、特色ある学校づくりに向けた事業を選定し、計画的に実施する。																												
28 年 度 の 実 績		1 平成28年度特色ある学校づくり事業交付金交付実績 (1) 小学校 16校 3,723,303円 (2) 中学校 9校 2,050,000円 (3) 合 計 25校 5,773,303円 (交付金 学校割 15万円/1校、児童生徒数割 500円/人) 2 対象経費別実施校数（複数事業可） <div style="text-align: right;">(単位：校)</div> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">対象経費</th> <th style="text-align: center;">小</th> <th style="text-align: center;">中</th> <th style="text-align: center;">計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>① 学力向上を図るための事業に係る経費</td> <td style="text-align: center;">10</td> <td style="text-align: center;">4</td> <td style="text-align: center;">14</td> </tr> <tr> <td>② 総合的な学習の時間及び体験事業に係る経費</td> <td style="text-align: center;">12</td> <td style="text-align: center;">8</td> <td style="text-align: center;">20</td> </tr> <tr> <td>③ スポーツ及び芸術活動事業に係る経費</td> <td style="text-align: center;">6</td> <td style="text-align: center;">5</td> <td style="text-align: center;">11</td> </tr> <tr> <td>④ ボランティア活動事業に係る経費</td> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">0</td> </tr> <tr> <td>⑤ 中学校校区等の複数の学校による合同事業に係る経費</td> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">0</td> </tr> <tr> <td>⑥ その他学校運営の円滑化を図るための事業に係る経費</td> <td style="text-align: center;">5</td> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">6</td> </tr> </tbody> </table>	対象経費	小	中	計	① 学力向上を図るための事業に係る経費	10	4	14	② 総合的な学習の時間及び体験事業に係る経費	12	8	20	③ スポーツ及び芸術活動事業に係る経費	6	5	11	④ ボランティア活動事業に係る経費	0	0	0	⑤ 中学校校区等の複数の学校による合同事業に係る経費	0	0	0	⑥ その他学校運営の円滑化を図るための事業に係る経費	5	1	6
対象経費	小	中	計																											
① 学力向上を図るための事業に係る経費	10	4	14																											
② 総合的な学習の時間及び体験事業に係る経費	12	8	20																											
③ スポーツ及び芸術活動事業に係る経費	6	5	11																											
④ ボランティア活動事業に係る経費	0	0	0																											
⑤ 中学校校区等の複数の学校による合同事業に係る経費	0	0	0																											
⑥ その他学校運営の円滑化を図るための事業に係る経費	5	1	6																											
教育委員会の評価		学校がこれまで予算がないために断念せざるを得なかった事業、例えば標準学力調査（CRT）の実施事業、巡視船の乗船等海洋学習事業、スキー教室事業、雪遊び事業、食育講演会事業などができるようになり、各校の問題意識に対してアイデアを活かした多様な解決策を実施できる環境整備ができた。																												

教育委員会自己点検・評価表

No. 13

点 検 ・ 評 価 項 目		
浜 田 市	施策の柱	I 学校教育の充実
教育振興計画 における項目	主要施策	(1) 生きる力の育成 教育環境
具 体 的 取 組		⑬ 学校事務の共同実施
担 当 課		学校教育課
内 容		1 次の視点から、学校事務共同実施に取り組む。 (1) 多忙化する教職員の事務負担の軽減を図る。 (2) 複雑化、大量化する学校事務の適正化及び効率化を図る。 (3) 学校間の事務処理ノウハウを共有し、校内の事務処理システムを改善する。 (4) 事務職員同士のコミュニケーションを醸成する。
28 年 度 の 目 標		1 「教育力向上のための浜田市立小中学校学校事務共同実施要綱」に基づき、7つのグループに分けて共同実施を行う。 2 松原小学校の「学校事務共同実施拠点室」において、月2回の共同実施日を設定する。 3 平成26年度に構築した学校事務ポータルサイトの活用について更に研究を行う。 4 事務共同実施の活動状況について教職員の理解を図るため、共同実施だよりを年2回作成する。
28 年 度 の 実 績		1 松原小学校の「学校事務共同実施拠点室」において、毎月定例の学校事務共同実施グループリーダー会及び共同実施を行った。 2 ポータルサイトの活用について、教職員にアンケート調査を実施し改善に向けた研究を行った。 3 年間計画に基づいた学校事務共同実施を開催することにより、学校間の事務の効率化・適正化を図るとともに、課題の情報共有、検討が出来る体制が整った。 4 各グループの実践発表を行い、教育委員会や浜田教育事務所職員も参加して活動内容を共有した。 5 備品管理システムを教育委員会と連携し、構築した。また、就学援助手続きについて申請様式の内容の改善を図った。 6 共同実施だよりを年2回発行した。
教育委員会の評価		学校事務共同実施は、事務の効率化・適正化に大きく寄与しており、総合的な学習や自然体験事業など、これまで教員のみで行っていた業務に事務職員が関わる機会が増えてきた。しかし、事務の効率化に増して、事業報告書の作成、関係機関からの調査やアンケート、パンフレットなど配布依頼が多数あり、教員、事務職員ともに多忙感の解消に至っていない。 引き続き共同実施に取り組むとともに、学校事務ポータルサイトの適切な活用など内容を進展させる必要がある。

教育委員会自己点検・評価表

No. 14

点 検 ・ 評 価 項 目		
浜 田 市 教育振興計画 における項目	施策の柱	I 学校教育の充実
	主要施策	(1) 生きる力の育成
		教育環境
具 体 的 取 組	⑭ 学校施設整備事業	
担 当 課	教育総務課	
内 容	老朽化した学校施設の改修等を実施し、教育環境の向上を図る。 屋内運動場の吊天井等非構造部材の落下防止等耐震対策を計画的に実施する。	
28 年 度 の 目 標	老朽化による施設改修については、雨漏りしている第二中学校の屋上防水工事、長浜小学校の屋内運動場の屋根改修工事を行う。 また、廊下や教室等床タイルが破損している旭中学校の床改修工事を行う。 非構造部材の耐震化工事については、浜田東中学校に次いで2棟目の対策工事となる原井小学校屋内運動場の吊天井撤去工事について実施設計委託、工事を行う。 教育環境整備として、トイレの洋式化に取り組むこととし、松原小学校トイレ洋式化工事を行う。	
28 年 度 の 実 績	当初の目標のとおり、老朽化による施設改修については、雨漏りしている第二中学校の屋上防水工事、長浜小学校の屋内運動場の屋根改修工事、また、旭中学校の床改修工事、その他学校施設の改修工事を行った。 非構造部材の耐震化工事とトイレ洋式化については、国の交付金（第二次補正）を受け、原井小学校の実施設設計委託、工事、松原小学校トイレ洋式化工事を行うこととしていたが、繰越実施となった。	
教育委員会の評価	多くの学校施設が老朽化しており改修の必要性が増す中、優先順位をつけ改修工事を実施した。 非構造部材の耐震対策工事については、対象施設を計画的に進め、工事にあたっては、屋内運動場の使用ができなくなる等、学校との調整が重要であるが、連携を密にし円滑に実施したい。 トイレの洋式化については、洋式トイレの設置数が少ない学校から順次実施していく予定である。	

教育委員会自己点検・評価表

No. 15

点 検 ・ 評 価 項 目		
浜 田 市 教育振興計画 における項目	施策の柱	I 学校教育の充実
	主要施策	(1) 生きる力の育成 教育環境
具 体 的 取 組		⑮ 学校統合計画策定
担 当 課		教育総務課
内 容	<p>現行の学校統合計画は平成27年度で終了したが、現計画の目的であった極少人数学級（複式学級）の解消以外にも、今後の児童・生徒の減少、中学校の部活動のあり方、さらに校区の見直し等の諸課題があり、それらの諸課題に対応する次期学校統合計画を策定する。</p>	
28 年 度 の 目 標	<p>平成28年度は、平成22年7月に策定した学校統合計画に基づく学校の統廃合が平成27年度に完了したことから、新たな学校統合計画の策定に向け、学校統合計画審議会への諮問を行うよう取り組む。</p>	
28 年 度 の 実 績	<p>新たな学校統合計画を策定するにあたり、学校統合計画審議会へ諮問するための具体的な諮問の項目、文言等の検討を行ったところであるが、委員の委嘱まで至らず、学校統合計画審議会の開催ができなかった。</p>	
教育委員会の評価	<p>平成27年1月に文部科学省が示した「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置に関する手引」では、教育の観点として、児童生徒の能力を伸ばしつつ、社会的自立の基礎、国家・社会の形成者としての基本的資質を養うことを目的とし、一定規模の児童生徒集団が確保されていることが望ましいと示されている。また、一方で、小・中学校は、児童生徒の教育のための施設であるだけでなく、各地域のコミュニティの核としての性格を有することから、地域住民の視点を踏まえた丁寧な議論も望まれるとも示している。</p> <p>学校規模の適正化については、教育的観点のみならず、地域の様々な事情を総合的に考慮して検討しなければならない大変デリケートかつ困難な課題を含むが、今後の児童、生徒の減少、中学校の部活動のあり方、さらに校区の見直し等の諸課題も踏まえ、教育条件の改善に向けて、次期学校統合計画策定を進めていく必要がある。</p>	

教育委員会自己点検・評価表

No. 16

点 検 ・ 評 価 項 目		
浜 田 市	施策の柱	I 学校教育の充実
教育振興計画 における項目	主要施策	(1) 生きる力の育成 学校安全
具 体 的 取 組		⑯ 児童生徒の安全で安心な環境の確保
担 当 課		学校教育課
内 容		子どもたちが安全で安心して教育を受けられるよう、学校や通学路における子どもの安全確保を図るため、学校・家庭及び地域の関係機関・団体が連携を図りながら、地域社会全体で子どもの安全を見守る体制を整備する。
28 年 度 の 目 標		1 児童生徒の安全に関する理解を高め、安全に行動しようとする態度を育てる。 2 登下校中の不審者からの被害、交通事故の防止に努める。 3 防災に関する意識を高め、自然災害時の人的被害の低減を図る。
28 年 度 の 実 績		1 学校において、危機対応と安全指導を行った。 (1) 防犯教室、不審者侵入対応訓練 (2) ネットトラブル防止教室 子ども安全センター職員又は外部講師が研修を行った。 2 防犯ボランティア団体、保護者、地域との連携を図った。 浜田市子ども安全連絡協議会で情報交換、防犯研修会を開催 3 不審者や有害鳥獣の情報発信（メール、FAX）を行った。 4 浜田市通学路安全推進会議 浜田市通学路交通安全プログラムに基づき対策の検討をした。 5 教育委員会ボランティア表彰の実施 (1) 個人 6人（松原小、周布小、今福小） (2) 団体 1団体（金城自治区防犯パトロール隊）
教育委員会の評価		危機対応については、防犯教室、不審者侵入対応訓練により児童生徒及び教職員の防犯意識が高まった。ネットトラブル防止については、トラブルの原因や対応方法も多様化しているため、より一層の啓発と専門的知識の研修が必要である。 不審者や有害鳥獣の情報発信については、適宜行っているが、平成28年度にクマによる人的被害が発生したことで、校外活動等を延期又は中止する事案が発生している。学校周辺にクマが目撃された場合の対応について整理する必要がある。 浜田市通学路安全推進会議の設置により道路管理者や警察等と危険箇所の一體的な対策が行われている。

教育委員会自己点検・評価表

No. 17

点 検 ・ 評 価 項 目		
浜 田 市	施策の柱	I 学校教育の充実
教育振興計画	主要施策	(1) 生きる力の育成
における項目		幼児教育
具 体 的 取 組		⑰ 幼児教育の充実
担 当 課		教育総務課
内 容		<p>生きる力の基礎を育む教育を実践するため、幼稚園における体験活動を充実させる等、園児の主体性を育み、経験の積み重ねを支援する取組を進める。</p> <p>また、小学校における教育への円滑な接続が図られるよう小学校や関係機関と連携を強化する。</p>
28 年 度 の 目 標		幼稚園と小学校の接続の弱さ解消のため、幼小連携の強化に努める。
28 年 度 の 実 績		<p>1 幼小連携に資するため、教育支援委員会に参加した。</p> <p>2 幼稚園毎に自然とふれ合うことにより、豊かな感性やたくましく生きる力を育む、自然の恵みを感じる体験を得ることを目的として自然体験活動推進事業を実施した。</p> <p>(1) 原井幼稚園 6月10日(金), 7月4日(月), 1月26日(木)</p> <p>(2) 石見幼稚園 7月12日(火), 9月7日(水)</p> <p>(3) 長浜幼稚園 9月13日(火), 7月1日(金), 10月7日(金)</p> <p>(4) 美川幼稚園 7月1日(金), 10月18日(火)</p> <p>3 幼稚園教育の資質向上のため、幼稚園教職員を対象とした人権同和研修会を実施した。</p>
教育委員会の評価		<p>幼稚園教育要領が全面改定され、学習指導要領と同じ方向性となる。また、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の3歳以上と共通の内容となり5つの領域における保育内容は同一のものでの指導となった。それに伴い、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿が示されており、学校におけるスタートカリキュラムが義務となるが、現在、小学校との交流は進んでいるものの、カリキュラムの連携は進んでいない。</p> <p>他市においては、市長部局で施設管理、入園管理を行い、教育分野を教育委員会で担うなどの取組も行われ、幼稚園、保育園の態様にとらわれず、3歳から5歳の未就学児全てを対象とした幼児教育に取り組始めている状況にある。幼稚園教育要領の改訂、県の全県同水準の保育・教育水準であることを目指したいといった意図と合致するものであることを踏まえれば、他市の行っている組織の一体化や幼児教育の観点の整理等を行う必要がある。</p>

教育委員会自己点検・評価表

No. 18

点 検 ・ 評 価 項 目		
浜 田 市 教育振興計画 における項目	施策の柱	I 学校教育の充実
	主要施策	(1) 生きる力の育成
		幼児教育
具 体 的 取 組	⑱ 幼児教育の環境整備	
担 当 課	教育総務課	
内 容	<p>公立幼稚園における少子化等に伴う幼稚園児数の減少への対応及び幼児教育の充実を図るため、また、行政の効率化の観点から、現在の4園から地域性や施設、職員体制等を勘案し幼稚園を統合し、教育環境の整備を行う。</p> <p>また、平成27年度施行の子ども子育て支援事業計画では、各種保育サービスについても盛り込まれており、統合幼稚園建設というハードの整備と合わせ、保育サービス等のソフトの整備についての検討が必要である。</p>	
28 年 度 の 目 標	<p>平成22年2月に決定した「公立幼稚園は存続するが、園児の減少や運営の効率化に鑑み、1園を閉園する。」との方針に変更ないものの、子ども・子育て関連3法に基づく新制度移行に対応するため、平成26年4月に予定していた原井幼稚園と石見幼稚園の統合は、当面の間、延期することとしたことについて、平成28年1月に当該幼稚園を統合し、統合幼稚園を新設することの方針決定がされている。</p> <p>平成28年度は、この方針決定に基づき、浜田市の幼児期の教育及び保育のあり方について検討するとともに、併せて、統合幼稚園の建設場所の方針決定時期等の検討を行う。</p>	
28 年 度 の 実 績	<p>保育サービス実施の検討として、水曜日の午後保育の平成29年度施行に向けて検討を行った。</p>	
教育委員会の評価	<p>平成27年度において、原井幼稚園及び石見幼稚園を統合し統合幼稚園を新設する方針を表明し、統合幼稚園の建設の方向となっているが、具体的な建設場所の選定等は未定のみである。</p> <p>建設場所等の決定や保育サービスの充実について園舎整備に合わせて決定していく必要がある。</p>	

教育委員会自己点検・評価表

No. 19

点 検 ・ 評 価 項 目		
浜 田 市 教育振興計画 における項目	施策の柱	I 学校教育の充実
	主要施策	(2) 一人ひとりを大切にする教育の推進
		問題行動対応
具 体 的 取 組	① 児童生徒健全育成事業	
担 当 課	学校教育課	
内 容	児童生徒の問題行動、不登校、いじめ問題など生徒指導上の諸問題に対して、小中学校へ指導助言を行うとともに、児童生徒やその保護者と面談して解決にあたる。	
28 年 度 の 目 標	小中学校へ指導助言を行うとともに、児童生徒やその保護者と面談して問題の解決を図る。	
28 年 度 の 実 績	1 電話対応 85件 2 ケース会議 8件 3 面談対応 24件 4 その他定期的な会議等に参加	
教 育 委 員 会 の 評 価	継続的な案件の対応のみならず、新規案件に対する学校からの相談に応じている。	

教育委員会自己点検・評価表

No. 20

点 検 ・ 評 価 項 目		
浜 田 市 教育振興計画 における項目	施策の柱	I 学校教育の充実
	主要施策	(2) 一人ひとりを大切にする教育の推進
		問題行動対応
具 体 的 取 組	② 問題行動、いじめ等の指導相談	
担 当 課	学校教育課	
内 容	1 不登校及び不登校傾向児童生徒の未然防止、学校への復帰に向けて児童生徒及び保護者への相談支援体制の充実を行う。 2 いじめ・問題行動や虐待等を防ぐために、児童生徒及び保護者への相談支援に加えて関係機関が連携して支援体制を充実する。	
28 年 度 の 目 標	1 不登校及び不登校傾向児童の未然防止、学校復帰に向けては、スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカー、子どもと親の相談員を学校に配置・派遣することで相談支援体制の充実を図るとともに、教育支援センター山びこ学級、心のかげ橋事業により学校以外の場所での相談支援体制の充実を図る。 2 いじめ問題対策については、いじめの認知の共通理解を促進する。 3 問題行動については、指導主事を中心に各校の管理職及び担当教職員と連携をして、相談支援体制の充実を図る。 4 虐待防止については、要保護児童生徒対策連絡協議会を中心に関係機関と連携して相談支援体制の充実に努める。	
28 年 度 の 実 績	1 スクールカウンセラー（SC）活用事業 (1) 相談件数延べ 855件（うち教職員 108件・保護者 77件） 2 スクールソーシャルワーカー（SSW）活用事業 (1) 訪問時間延べ 677時間（不登校 26件、問題行動 10件、家庭環境の問題 25件） 3 子どもと親の相談員 (1) 石見小学校と周布小学校に各1人配置 4 山びこ学級通級者の状況 (1) 小学生延べ 75人（実数 3人）、復帰者数 1人 (2) 中学校延べ 1,001人（実数 16人）、復帰者数 1人 5 心のかげ橋支援事業 (1) 参加者数延べ 236人（実数 2人） (2) 家庭訪問数延べ 0人（実数 0人） 6 いじめ問題対策 (1) 浜田市いじめ問題対策連絡協議会 2回開催 (2) 浜田市いじめ防止対策推進委員会設置 2回開催	
教育委員会の評価	不登校児童生徒への対応については、児童生徒支援室を中心にSC、SSW、子どもと親の相談員等と学校及び関係機関等が連携して未然防止と学校復帰が図られた。 いじめ問題対策については、学期ごとに実態を把握するとともに、いじめ問題対策基本方針に基づき浜田市いじめ問題対策連絡協議会、浜田市いじめ防止対策推進委員会を開催して対策を行った。 今後とも継続した取組が必要である。	

教育委員会自己点検・評価表

No. 21

点 検 ・ 評 価 項 目		
浜 田 市 教育振興計画 における項目	施策の柱	I 学校教育の充実
	主要施策	(2) 一人ひとりを大切にする教育の推進
		問題行動対応
具 体 的 取 組		③ 親学プログラムの実施
担 当 課		生涯学習課
内 容		<p>「親学プログラム」は、子育て支援や家庭教育支援を行う人が、乳幼児を持つ親や小中学生を持つ親（保護者）を対象とした学習機会において活用していただくために作成された島根県のプログラムである。</p> <p>この「親学プログラム」は、子育てについて一つの答えを求めたり、家庭における正しい子育て方法を指導したりするマニュアルではなく、参加型学習の手法を用いて、参加者同士が交流しながら、親としての役割や子どもとの関わり方について気づきを促すことを狙いとする学習プログラムである。</p> <p>また、平成27年度には、「親学プログラム2」として、子どもの育ちをめぐる喫緊の社会問題である「いじめ」や「児童虐待」の未然防止に対応した新しい親学プログラムが開発された。</p>
28 年 度 の 目 標		より多くの保護者の方々に親としての役割や子どもとの関わり方への気づきを提供していくため、実施回数を増やしていく。
28 年 度 の 実 績		<p>1 平成28年度 17回 [平成27年度 22回]</p> <p>(1) 子育てサークルの方対象のシリーズものや、若い世代とその親世代の交流の場をねらった新たな公民館事業による親学プログラムの活用があった。</p> <p>(2) 学校のPTA研修会や保育所での実施が減少した。</p> <p>(3) 17回のうち、親学プログラム2の実施は5回で昨年度より1回増えた。</p> <p>2 小中学校PTA研修 7回</p> <p>3 公民館実施（地域対象） 6回</p> <p>4 すくすく（子育て支援センター） 4回</p>
教育委員会の評価		<p>「親学プログラム」についての認識が保護者に対してまだ十分ではないため、受講者はもともと意識が高い保護者となっており、本当に親学を活かしてほしい人は受講していない。また、PTA活動を負担に思う保護者が増えている中で学齢期から取り組むのは課題が多い。</p> <p>普及を図るためには、保護者の育児に対する不安が大きい乳幼児期に、学びの機会を提供することで、認知を得ていく必要がある。</p> <p>まず、子育て支援課等と連携を図り、普及啓発に努めるとともに、引き続き保育所、幼稚園、小中学校への親学プログラムの周知・啓発を強化し、より多くの機会での活用を推進していく必要がある。</p>

教育委員会自己点検・評価表

No. 22

点 検 ・ 評 価 項 目		
浜 田 市	施策の柱	I 学校教育の充実
教育振興計画 における項目	主要施策	(2) 一人ひとりを大切にする教育の推進
		特別支援
具 体 的 取 組		④ 特別支援教育推進事業
担 当 課		学校教育課
内 容		教育上特別な配慮を必要とする幼児、児童、生徒に対して、特別支援連携協議会、相談支援チーム及び教育支援委員会の活動を通して、医療・福祉などの関係機関が連携した教育相談、就学に関する助言、支援を行う。
28 年 度 の 目 標		1 保育所(園)、幼稚園を巡回訪問し、発達障がいのある子どもやその保護者の相談に応じ、適切な関係機関と連携して支援を行う。 2 障がいのある幼児、児童、生徒一人ひとりの教育的ニーズを把握し、持てる能力を最大限に伸ばすために、適切な就学と支援のあり方について保護者と教育相談を行うとともに、在籍校への支援を行う。
28 年 度 の 実 績		1 相談支援チームによる保育所(園)、幼稚園巡回訪問実績 (1) 0歳児 1人 (2) 1歳児 16人 (3) 2歳児 39人 (4) 3歳児 59人 (5) 4歳児 72人 (6) 5歳児 70人 (7) 合計 257人 2 教育支援委員会審議実績 (1) 幼保 18人 (2) 小学校 35人 (3) 中学校 3人 (4) 合計 56人
教育委員会の評価		障がいのある幼児児童生徒の早期発見については、相談支援チームが、全保育所(園)、幼稚園を訪問して効果をあげている。また、子育て支援課と連携して在宅児の把握もしている。 障がいのある児童生徒の教育的ニーズの把握については、学校でのケース会議の他、教育支援委員会の審議を通して学校及び保護者と教育相談を行い把握し、支援につなげた。

教育委員会自己点検・評価表

No. 23

点 検 ・ 評 価 項 目		
浜 田 市 教育振興計画 における項目	施策の柱	I 学校教育の充実
	主要施策	(2) 一人ひとりを大切にする教育の推進
		貧困対策
具 体 的 取 組	⑤ 要保護・準要保護児童生徒就学援助	
担 当 課	学校教育課	
内 容	子どもが教育を受ける権利を保障し、貧困の連鎖を断ち切るために経済的な不安を抱える家庭に対する学用品費や給食費などの支援を実施する。	
28 年 度 の 目 標	子どもたちが安心して学校生活を送れるよう、速やかに認定の審査を行う。	
28 年 度 の 実 績	<ol style="list-style-type: none"> 1 要保護は、小学校9件、中学校7件、合計16件を認定した。 2 準要保護は、小学校430件、中学校274件、合計704件を認定した。 3 要保護・準要保護を受ける児童生徒の割合は、小学校で14.46%、中学校で18.52%、全体で15.87%であった。 4 認定者には、要綱に従い学用品費、校外活動費（交通費等）、修学旅行費、遠距離通学費、給食費、医療費等の扶助を行った。 なお、不認定者が小学校14人、中学校15人、合計29人あった。 	
教育委員会の評価	<p>就学援助の認定事務及び支給事務は適切に行われている。また、子どもの貧困は子どもの成長に大きく関わることから要保護児童対策連絡協議会及び浜田市生活困窮者自立支援対策庁内連携会議等と連携して対象児童生徒の実態掌握と周知を行っている。</p> <p>なお、労働関係団体から、準要保護の給付項目の追加（クラブ活動費、生徒会費、PTA会費）要望がなされたが、要望のあった項目追加については、他市等の状況も踏まえ今後、検討が必要と考える。</p>	


教育委員会自己点検・評価表

No. 24

点 検 ・ 評 価 項 目		
浜 田 市 教育振興計画 における項目	施策の柱	I 学校教育の充実
	主要施策	(2) 一人ひとりを大切にする教育の推進
		人権・同和教育
具 体 的 取 組	⑥ 人権意識高揚の推進	
担 当 課	人権同和教育室	
内 容	差別をしない、させない、許さない社会を構築していくためには、人権意識を高める教育や啓発が最も重要である。人を人として大切にする児童・生徒の人権感覚を育てるため、引続き人権・同和教育を推進する。	
28 年 度 の 目 標	教職員研修、人権集会等の開催を繰り返し実施することにより、自分を大切にするとともに他人も大切にする人権意識の高い児童・生徒の育成に努める。	
28 年 度 の 実 績	1 学校職員人権・同和问题研修会 全小中学校で実施 全日本同和会島根県連合会または部落解放同盟島根県連合会から講師を招いての研修を実施。 2 地域ぐるみで育てる人権意識講座（人権集会等） 20回 (1) 内訳 ア 中学校 10回 イ 小学校 8回（一中校区合同、二中校区合同、三中校区合同、三隅中校区合同、国府・波佐小学校合同、美川小学校、今市小学校、松原小学校） ウ 小中学校合同 1回（金城自治区） エ 特別支援学校 1回	
教育委員会の評価	教職員研修や地域ぐるみの学習（人権集会等）は、児童生徒、教職員、保護者、関係団体と地域住民が共に学び合い、参加者それぞれが人権意識を高める事業になっており、これらを途切れることなく継続して実施することが、自分を大切にするとともに他人も大切にする人権意識の高い児童・生徒の育成につながるものと考えている。	


教育委員会自己点検・評価表

No. 25

点 検 ・ 評 価 項 目		
浜 田 市 教育振興計画 における項目	施策の柱	I 学校教育の充実
	主要施策	(3) 食育と体づくりの推進 食育
具 体 的 取 組	① 食育推進事業	
担 当 課	教育総務課	
内 容	朝ご飯をしっかりと食べることや、家族や仲間と一緒に楽しく食べることができるよう、浜田の様々な資源を活かした食育を推進する。	
28 年 度 の 目 標	給食だよりでの啓発、給食の朝ごはん献立の実施、食の指導、和食推進献立、郷土料理、行事食の提供等、地元の資源を活用した食育を行う。	
28 年 度 の 実 績	<p>和食推進の観点から「まごわやさしい」献立や統一献立の日、おいしい浜田の日、朝ごはん献立、お茶の日や七夕、お月見やクリスマス等四季を感じる献立、行事食・郷土料理の提供を行った。</p> <div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 20px;"> <p>浜田：浜田産アジ丸ごと一尾を使用した献立</p> </div> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>五感～いろんな角度から味わう</p> <p>目 …見て味わう（大きさ、色、つや、骨のつくり）</p> <p>耳 …聴いて味わう（噛む音、魚の話、友達との会話）</p> <p>鼻 …香って味わう（生魚、焼き魚の香り）</p> <p>口 …噛んで味わう（魚の旨味、食感）</p> <p>手 …触って味わう（生魚、焼き魚、はしから伝わる感触）</p> </div> <p>島根県浜田水産事務所の水産物利用拡大モデル事業の一環で「浜田産マアジ一尾丸ごと塩焼き」を給食に提供した。 また、それに合わせて、浜田の水産業や魚の上手な食べ方、五感を使って食べるよう指導する等、様々な視点から生きた教材として活用した。</p>	
教育委員会の評価	<p>地元の魚を使用した献立を提供し食育授業を実施できた。今後も給食だよりや試食会等を通じて、食育の取組の紹介や朝食の大切さ、和食推進献立を啓発していきたい。 各給食センター・学校調理場において地域の特色を生かした食育指導を行っており継続した取組を行いたい。</p>	

教育委員会自己点検・評価表

No. 26

点 検 ・ 評 価 項 目		
浜 田 市 教育振興計画 における項目	施策の柱	I 学校教育の充実
	主要施策	(3) 食育と体づくりの推進
		食育
具 体 的 取 組	② 学校給食での地産地消の推進	
担 当 課	教育総務課	
内 容	<p>地元の食材や旬のものを取り入れ、安全安心な給食を提供する。地元食材が活用できるよう仕入れの仕組みを研究し、仕入れ額増加を図る。児童生徒の食に関する体験の機会を増やす。</p>	
28 年 度 の 目 標	<p>島根県地元産品活用割合調査において70%を目指す。 地元の食材を使い食育指導を行い、地域の食材や産業を知り、食への感謝の気持ちを育てる。</p>	
28 年 度 の 実 績		<p>金城：浜田産アジの開きを使った献立</p>
教育委員会の評価	<p>島根県の魚食普及の取組により、浜田産の新鮮な魚を給食に提供する試験実施ができた。これを契機に、給食に魚を出すことの意義が再認識された。 今後も通常の購入ルートで浜田産の食材が多く仕入れられるよう関係機関と連携を図りたい。</p>	

教育委員会自己点検・評価表

No. 27

点 検 ・ 評 価 項 目														
浜 田 市	施策の柱	I 学校教育の充実												
教育振興計画 における項目	主要施策	(3) 食育と体づくりの推進 体育												
具 体 的 取 組		③ 学校体育大会支援事業												
担 当 課		学校教育課												
内 容		児童・生徒の体力向上を図ることで健全な心身の育成に寄与することを目的に、小中学校の体育大会開催や部活動の支援を行う。												
28 年 度 の 目 標		小学校の陸上競技大会や体操競技大会、中学校の部活動を円滑に実施し、保護者等の負担軽減に資するよう支援を継続する。												
28 年 度 の 実 績		<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%;">1</td> <td style="width: 75%;">浜田市小学校体育連盟事業補助 (主に陸上競技大会と体操競技大会の交通費)</td> <td style="width: 20%; text-align: right;">1,670,000円</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>中学校体育連盟事業補助 (主に負担金、会場使用料、審判謝金、用具の購入)</td> <td style="text-align: right;">1,200,000円</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>浜田市中学校部活動事業補助 (主に交通費、備品購入費)</td> <td style="text-align: right;">7,100,000円</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>全国大会派遣事業補助 (旅費、宿泊費)</td> <td style="text-align: right;">800,953円</td> </tr> </table>	1	浜田市小学校体育連盟事業補助 (主に陸上競技大会と体操競技大会の交通費)	1,670,000円	2	中学校体育連盟事業補助 (主に負担金、会場使用料、審判謝金、用具の購入)	1,200,000円	3	浜田市中学校部活動事業補助 (主に交通費、備品購入費)	7,100,000円	4	全国大会派遣事業補助 (旅費、宿泊費)	800,953円
1	浜田市小学校体育連盟事業補助 (主に陸上競技大会と体操競技大会の交通費)	1,670,000円												
2	中学校体育連盟事業補助 (主に負担金、会場使用料、審判謝金、用具の購入)	1,200,000円												
3	浜田市中学校部活動事業補助 (主に交通費、備品購入費)	7,100,000円												
4	全国大会派遣事業補助 (旅費、宿泊費)	800,953円												
教育委員会の評価		<p>小学校体育連盟では、陸上競技大会、体操競技大会を開催することで児童の競技スポーツに対する興味関心を喚起し、もって健全な身体の育成を図った。</p> <p>中学校体育連盟は、中学校総合体育大会を開催し、各校の部活動等の練習成果を競う場を提供するとともに、中国大会、全国大会など、より高いレベルで競い合う機会に向けて、身体作り、技術向上及びチームワーク醸成など更なる意欲向上に繋げた。</p> <p>各競技において全国大会出場の栄誉を勝ち得た者に対しては、旅費の実費を補助することで保護者の経済的負担を軽減し、安心して出場できる環境づくりを行うことができた。</p>												

教育委員会自己点検・評価表

No. 28

点 検 ・ 評 価 項 目		
浜 田 市 教育振興計画 における項目	施策の柱	I 学校教育の充実
	主要施策	(3) 食育と体づくりの推進
		保健
具 体 的 取 組	④ 学校保健・環境衛生の充実	
担 当 課	学校教育課	
内 容	<p>児童・生徒の健康状態を把握し、保健指導等を実施するなどにより、子どもたちの健康保持増進を図る。 子どもたちの学校生活が安全に営まれるよう、適切な教育環境・衛生の維持・改善を図る。</p>	
28 年 度 の 目 標	<p>健康診断を実施し、健やかな成長を促す。 学校環境衛生検査を実施し、教育環境の維持管理を推進し、安全安心な学校生活を維持する。</p>	
28 年 度 の 実 績	<p>1 健康診断 (1) 就学時健康診断（入学予定園児） (2) 就園前健康診断（新入園児） (3) 定期健康診断（幼児・児童・生徒） (4) 心電図検査（小学4～6年生、中学生）、精密検査 (5) 尿検査（幼児・児童・生徒） (6) 心電・心音検査（小学1年生） (7) 寄生虫検査（幼児・小学1～3年生） (8) 動脈硬化危険因子調査（小学4年生、中学1年生）</p> <p>2 学校環境衛生検査 (1) 空気中化学物質検査 (2) 校舎消毒 (3) プール水質検査 (4) 学校薬剤師による検査（飲料水水質検査、ダニ・アレルゲン検査、照度検査等）</p>	
教育委員会の評価	<p>児童生徒に対する健康診断により、保健指導等を行い、児童生徒の健康保持増進を図ることができた。また、学校環境衛生検査を行い、適正値から外れるものについては、改善処置を行い、教育環境・衛生の維持・改善を図ることができた。</p> <p>そして、学校保健会と連携して小児メタボリックシンドロームの予防及び、健康教育（食育）の一環として生活予防検診を実施して、養護教諭が健康相談を行うなど、積極的な健康増進を図った。</p>	

教育委員会自己点検・評価表

No. 29

点 検 ・ 評 価 項 目		
浜 田 市	施策の柱	Ⅱ 家庭教育支援の推進
教育振興計画	主要施策	(1) 家庭教育支援の充実
における項目		家庭教育支援
具 体 的 取 組		① 親学プログラムの実施
担 当 課		生涯学習課
内 容		<p>「親学プログラム」は、子育て支援や家庭教育支援を行う人が、乳幼児を持つ親や小中学生を持つ親（保護者）を対象とした学習機会において活用していただくために作成された島根県のプログラムである。</p> <p>この「親学プログラム」は、子育てについて一つの答えを求めたり、家庭における正しい子育て方法を指導したりするマニュアルではなく、参加型学習の手法を用いて、参加者同士が交流しながら、親としての役割や子どもとの関わり方について気づきを促すことを狙いとする学習プログラムである。</p> <p>また、平成27年度には、「親学プログラム2」として、子どもの育ちをめぐる喫緊の社会問題である「いじめ」や「児童虐待」の未然防止に対応した新しい親学プログラムが開発された。</p>
28 年 度 の 目 標		より多くの保護者の方々に親としての役割や子どもとの関わり方への気づきを提供していくため、実施回数を増やしていく。
28 年 度 の 実 績		<p>1 平成28年度 17回 [平成27年度 22回]</p> <p>(1) 子育てサークルの方対象のシリーズものや、若い世代とその親世代の交流の場をねらった新たな公民館事業による親学プログラムの活用があった。</p> <p>(2) 学校のPTA研修会や保育所での実施が減少した。</p> <p>(3) 17回のうち、親学プログラム2の実施は5回で、昨年度より1回増えた。</p> <p>2 小中学校PTA研修 7回</p> <p>3 公民館実施（地域対象） 6回</p> <p>4 すくすく（子育て支援センター） 4回</p>
教育委員会の評価		保育所での実施がなくなった。また、学校のPTA研修会での実施が減少した。保育所、幼稚園、小中学校への親学プログラムの周知・啓発を強化し、より多くの機会での活用を推進していく必要がある。

教育委員会自己点検・評価表

No. 30

点 検 ・ 評 価 項 目		
浜 田 市 教育振興計画 における項目	施策の柱	Ⅱ 家庭教育支援の推進
	主要施策	(1) 家庭教育支援の充実
		家庭教育支援
具 体 的 取 組	② 家庭教育支援チームの結成	
担 当 課	生涯学習課	
内 容	<p>家庭教育の支援の中で最も大きな課題となっている部分に、学校や専門機関の支援が届きにくい家庭に対する支援のあり方をどうするかということがある。身近な同等の立場で支援を行うことができれば支援が届きやすく、支援を受ける側も安心感を持つことができる。そのことにより、地域家庭（他の家）をサポートする力の養成にも役立つことになる。地域人材を中心にきめ細やかな活動を組織的に行う仕組みづくり（「家庭教育支援チーム」型支援）が急務である。チームを組織化するに当たっては、人材確保、組織・運営のルールづくり、拠点の確保などが必要になり、この点については、行政のサポートが重要である。</p>	
28 年 度 の 目 標	家庭教育支援チームの結成に向けて取組を進める。	
28 年 度 の 実 績	<p>福祉部局や学校教育課と、相談支援チームとの区分や家庭教育支援チームの支援内容についての協議は行っているが、家庭教育支援チームのあり方が定まらず、結成までの段階には至っていない。</p>	
教育委員会の評価	<p>家庭教育支援チームのあり方が定まっていないことや情報共有が困難であることも踏まえ、チームの結成までには問題が多い。 家庭教育支援としては、現在、就学前児童の家庭に対する親の学びプログラムの作成を検討している。親の学びプログラムの作成と併せて、家庭教育支援チームについても検討を続けていく。</p>	

教育委員会自己点検・評価表

No. 31

点 検 ・ 評 価 項 目		
浜 田 市	施策の柱	Ⅱ 家庭教育支援の推進
教育振興計画	主要施策	(1) 家庭教育支援の充実
における項目		家庭教育支援
具 体 的 取 組		③ つなぐ、つながる事業（三世代交流・通学合宿支援）
担 当 課		生涯学習課
内 容		<p>1 三世代交流事業（公民館による実施）の支援 シニア世代と子ども及びその親世代を含めた三世代が、自然とのふれあいや様々な体験的活動を実施することにより、子どもの健全な心身の育成と豊かな人間性を育むとともに、家庭と地域とのつながりや世代間交流の場を提供する。</p> <p>2 通学合宿（公民館による実施）の支援 小学生が家庭を離れて公民館等で寝泊まりしながら小学校に通学する「通学合宿」は、家庭から離れた公民館を拠点にした「地域」という場の中で生活することによって、礼儀等のふるまいを身につけることを目的とする。また、併せて、家族の大切さを親子ともに再認識することを目的とする。</p>
28 年 度 の 目 標		三世代交流事業・通学合宿事業の支援を行うことによって、より多くの地域での事業実施を促し、家庭教育支援、ひいてはコミュニティーの活性化を図る。
28 年 度 の 実 績		<p>1 三世代交流事業 平成28年度 15事業 [平成27年度 9事業]</p> <p>(1) 浜田公民館 そうめん流し、もちつき、昔遊びと鏡開き等 (2) 石見公民館 石見地区ジョイフルソフトボール大会 (3) 国府公民館 軽スポーツ交流 (4) 周布公民館 三世代ボーリング (5) 美川公民館 しめ縄づくり交流会 (6) 大麻公民館 五月人形・雛人形展 (7) 雲城公民館 そば打ち体験を通じた三世代交流 (8) 今福公民館 川の生物観察、鮎のつかみ取り (9) 美又公民館 古民具を利用した昔の生活体験 (10) 波佐公民館 グラウンドゴルフ交流会、しめ縄作り交流会 (11) 杵束公民館 川遊び・野外炊飯 (12) 安城公民館 もちつき交流会 (13) 三隅公民館 もちつき・小正月の行事についてお話しをきく (14) 三保公民館 もちつき交流会 (15) 岡見公民館 さつまいもオーナーになろう ※三世代交流事業については、6事業増加した。</p> <p>2 通学合宿事業 平成28年度 4事業 [平成27年度 5事業]</p> <p>(1) 周布公民館、波佐公民館、杵束公民館、国府公民館(有福分館) ※通学合宿事業については、1事業減少となった。</p>

点 検 ・ 評 価 項 目

教育委員会の評価

三世代交流事業について、地域の異なる世代との交流を図ることにより、子どもの豊かな人間性の育成や家庭と地域とのつながりを創出し、家庭教育の支援を行うことができた。

通学合宿事業について、家庭を離れて公民館で寝泊まりし、学校に通学することにより、他者との関係の中で礼儀等のふるまいを学んだ。また、家族と離れて生活する場を提供することにより、家族の大切さへの気づきを提供することができた。

教育委員会自己点検・評価表

No. 32

点 検 ・ 評 価 項 目		
浜 田 市	施策の柱	Ⅱ 家庭教育支援の推進
教育振興計画	主要施策	(1) 家庭教育支援の充実
における項目		家庭教育支援
具 体 的 取 組		④ 「家読（うちどく）」の推進
担 当 課		生涯学習課
内 容	<p>「家読（家庭読書）」には、特別なルールやノルマがあるものではなく、家庭で、読書を通じて、家族の心の絆を深め、豊かな心を育むことを目的としているものである。方法も自由で、家族で話し合い、その家庭に一番合ったものにするのが大切である。読書には、子どもにとっても親にとっても、家庭教育の中で意義あるものである。家読の推進に向けて、具体的な取組を検討していく。</p>	
28 年 度 の 目 標	<p>テレビやインターネット、スマートフォンやゲーム等、娯楽や情報獲得の手段としてのメディアの多様化が小中学生の家庭での読書に影響を与えている。メディアとの適切な関わり方も含め、家読の啓発を進めていく。</p>	
28 年 度 の 実 績	<p>1 「家庭読書の有効性や必要性」について学び、推進に向けての意識高揚を図るため、また、「家庭読書を推進していくために必要なこと」について学ぶため、講師を招いて研修会を開催した。</p> <p>(1) 日 時 平成28年10月15日（土）午前9時30分から (2) 場 所 浜田市立中央図書館 (3) 講 師 長畑 実 氏（日本福祉大学） (4) 対象者 公民館職員、放課後子ども教室関係者、放課後児童クラブ関係者、学校関係者、はまだっ子共育プロジェクトコーディネーター、社会教育委員 等 (5) 参加者 23人 (6) 内 容 地域ぐるみでの読書活動推進の必要性や家読推進における地域・図書館・公民館の役割について</p>	
教育委員会の評価	<p>小中連携教育の「家庭・地域との連携部会」では、年間3回のノーメディアの取組を行っており、メディアの接触時間は短縮されているが、その時間が読書や学習時間の増加に十分つながっていない。</p> <p>より家読の推進を図るため、学校と家庭、地域が目的意識を持った取組をする必要がある。</p> <p>その意識高揚に向けて引き続き研修会等の開催が必要である。</p>	

教育委員会自己点検・評価表

No. 33

点 検 ・ 評 価 項 目		
浜 田 市	施策の柱	Ⅱ 家庭教育支援の推進
教育振興計画 における項目	主要施策	(1) 家庭教育支援の充実 P T A連携
具 体 的 取 組		⑤ P T A活動との連携強化
担 当 課		青少年サポートセンター
内 容		浜田市P T A連合会が実施するP T A活動の充実に向けた研修事業を支援するとともに、子どもに関する市教育施策等について意見交換をする中で連携を強化する。
28 年 度 の 目 標		1 浜田市P T A連合会研修大会に対する事業経費の助成 人間性豊かな子どもの育成を目指し、自己啓発、P T Aの進むべき方向を研修する事業に対する助成を行う。 2 市長表敬訪問の実施と教育委員会事務局との意見交換会の開催 市長表敬と意見交換会を年1回実施。教育委員会事務局と定期的な意見交換を行うため年2回程度意見交換会を開催し、研修会等に参加して、学校、家庭、地域における教育環境の課題等について協議する。
28 年 度 の 実 績		1 浜田市P T A連合会研修大会に対する事業経費の助成 (1) 実施日 平成28年6月26日(日) (2) 内容 講演会 講師 熊丸みつ子 演題 「うちの子、最高！」 (3) 助成額 184,000円 2 市長表敬及び浜田市P T A連合会役員と教育委員会事務局との意見交換会の開催等 (1) 市長表敬 平成28年7月5日(火) (2) 浜田市P T A連合会委員総会参加 平成28年5月13日(金) (3) 浜田市P T A連合会研修大会参加 平成28年6月26日(日) (4) 第1回教育委員会事務局との意見交換会 平成28年7月5日(火) (5) 第2回教育委員会事務局との意見交換会 平成29年2月10日(金) (6) 教育委員との意見交換会 平成29年1月20日(金)
教育委員会の評価		「浜田市教育振興計画」の基本理念実現のためには、家庭、学校、地域との協働・連携が不可欠であり、その中核的活動組織のP T Aの役割は重要である。P T A会員の資質を高める研修事業への支援をはじめ、浜田市P T A連合会役員との意見交換を行い連携を強化していく必要がある。 浜田市P T A連合会においては、意見交換等の内容を各校P T Aに確実に情報提供し、より連携されることを期待する。 また、教育委員会事務局内においても、学校教育課や生涯学習課等、課を越えた連携を図っていく必要がある。


教育委員会自己点検・評価表

No. 34

点 検 ・ 評 価 項 目		
浜 田 市 教育振興計画 における項目	施策の柱 主要施策	II 家庭教育支援の推進 (2) 青少年の健全育成 健全育成
具 体 的 取 組		① 関係協議会等への補助事業
担 当 課		青少年サポートセンター
内 容		自治区単位（弥栄自治区を除く。）で設置している青少年健全育成協議会等の活動支援を行なう。
28 年 度 の 目 標		1 青少年健全育成協議会等への助成 弥栄自治区を除く4自治区に設置されている協議会等に補助を行なう。 2 協議会統合の検討 4協議会はそれぞれの歴史があり、事業内容・予算等異なるが、出来る部分から統合に向け調整を行なう。
28 年 度 の 実 績		1 青少年健全育成協議会等への助成 (1) 浜田青少年健全育成推進会議 229,000円 (2) 金城自治区青少年健全育成連絡協議会 763,000円 (3) あさひ子ども健全育成協議会 58,000円 (4) 青少年育成三隅町民会議 194,000円 2 協議会統合の検討 青少年サポートセンターに事務局のある金城、三隅両自治区の組織等で、調整を行なえる部分について協議を行なった。
教育委員会の評価		4協議会とも沿革が異なり、事業内容や予算等も異なる中、組織の一本化に向けての調整は困難を要するが、既存の事業内容について精査し、統合に向けた体制整備を図る必要がある。

教育委員会自己点検・評価表

No. 35

点 検 ・ 評 価 項 目		
浜 田 市 教育振興計画 における項目	施策の柱	Ⅱ 家庭教育支援の推進
	主要施策	(2) 青少年の健全育成
		健全育成
具 体 的 取 組	② 青少年団体育成補助事業	
担 当 課	青少年サポートセンター	
内 容	浜田市内の青少年育成を目的として活動している団体への活動支援を行なう。	
28 年 度 の 目 標	1 活動費の助成 児童数の減少により各団体の会員数は減少しているが、引き続き活動を支援するために補助を行なう。	
28 年 度 の 実 績	1 活動費の助成 (1) 浜田海洋少年団 92,000円 (2) ボーイスカウト第1団 0円 (事業未実施のため) (3) ボーイスカウト第2団 0円 (事業未実施のため)	
	 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-left: 20px;"> 浜田海洋少年団 「日本海洋少年団 第12回中国地区連盟大会」 ～ 開会式の様子 ～ </div>	
教育委員会の評価	<p>浜田海洋少年団は定期的な活動と中国地区大会に参加し、会員数確保のため精力的に活動している。</p> <p>ボーイスカウト1団・2団については、会員数の減少により組織を統合し、現在は浜田ボーイスカウト1団として活動している。組織の統合により、H28年度は団員募集の一環として毎年行っている行事ができなかった。イベントでの周知も大切だが、団の紹介や団員募集については計画的な働きかけが必要である。</p>	

教育委員会自己点検・評価表

No. 36

点 検 ・ 評 価 項 目		
浜 田 市	施策の柱	Ⅱ 家庭教育支援の推進
教育振興計画 における項目	主要施策	(2) 青少年の健全育成 健全育成
具 体 的 取 組		③ 青少年自立支援事業
担 当 課		青少年サポートセンター
内 容		不登校、ひきこもり・ニートなど日常生活を送る上で様々な困難を抱える子どもから概ね40歳までの若者に対して、居場所や様々な体験活動の場を提供することにより、社会参加や就学・就労等社会的自立に向けた支援を行なう。
28 年 度 の 目 標		1 不登校、ひきこもりなどの社会参加・自立に向けた支援 不登校やひきこもりの子ども・若者が気軽に過ごせる居場所の提供及び自立に向けて他者と関わりながら行なう体験活動などを実施する。 2 居場所活動等の充実、相談・支援、他機関との連携
28 年 度 の 実 績		1 不登校、ひきこもりなどの社会参加・自立に向けた支援 (1) 居場所利用者 延べ836人（実利用者85人） (2) 体験教室及び活動 82回、延べ160人参加 (3) 若年無業者（ひきこもり、ニート）相談 40人（内、短期バイトを含む就労者5人） 2 居場所活動等の充実、相談・支援、他機関との連携 (1) 教室・クラブ活動の開催及び内容の見直し (2) 所内支援検討会議の開催（定期 月1回、状況に応じ随時有り） (3) 訪問による在宅支援の充実 (4) 関係機関との情報交換等連携の充実 延べ相談件数 1,023件
教育委員会の評価		前年度と比較して居場所の利用者や相談件数が減少した。これは4月末に施設を移転し、居場所利用者をはじめとする来所者に戸惑いが生じたと思われる。また、訪問による相談・支援等の充実を図っているが、新たな居場所利用や社会参加につながらない現実がある。 自立支援では、就労、職業的自立ができたものは少数であり、今後も継続的な支援が必要である。 不登校、ひきこもり・ニートなどの困難を抱える子ども・若者が安心して利用できる居場所の確保と、相談・支援体制の充実や、参加しやすい体験教室・活動の検討を適時行い、社会参加、自立に向けた支援の継続が求められる。

教育委員会自己点検・評価表

No. 37

点 検 ・ 評 価 項 目		
浜 田 市	施策の柱	Ⅲ 社会教育の推進
教育振興計画 における項目	主要施策	(1) ふるさと郷育の推進
		郷育
具 体 的 取 組		① 「浜田市の人物読本」の活用
担 当 課		生涯学習課
内 容		平成27年度に「浜田市の人物読本 ふるさとの50人」を作製。浜田市の人物50人を選定し、「ふるさとの50人」として紹介している。 小学4年生以上を対象とした学校補助教材として、授業での活用を進め、ふるさとへの愛着心の醸成を図る。
28 年 度 の 目 標		市内小学校4～6年生に配布。授業での活用を図る。
28 年 度 の 実 績		全ての小学校で活用がされた。 1 アンケート結果 (1) ふるさとの50人全ての人物が活用されていた。 (2) 国語や社会、総合的な学習の時間等の授業の中で活用があった。 (3) 図書館教育において、読書月間の取組や図書館クイズラリー、児童集会（図書委員会計画）の中での紹介等の活用があった。
教育委員会の評価		授業や図書館活動で活用され、ふるさとへの愛着心の醸成を担っている。今後もより多くの活用を推進していく。

教育委員会自己点検・評価表

No. 38

点 検 ・ 評 価 項 目		
浜 田 市	施策の柱	Ⅲ 社会教育の推進
教育振興計画 における項目	主要施策	(1) ふるさと郷育の推進
		郷育
具 体 的 取 組		② ふるさと再発見事業
担 当 課		生涯学習課
内 容		中学生を対象としたお宝や資源（ひと・もの・こと）を活かした体験型学習プログラム。 この事業は、キャリア教育としても活用され、平成26年度に金城中学校区で取り組まれた事業を全市に広げるものである。 また、大人の学びとして成人を対象としたふるさと教育にも取り組むものとする。
28 年 度 の 目 標		全公民館において、事業を実施することにより、ふるさと郷育の推進を図る。
28 年 度 の 実 績		<p>1 全ての公民館でふるさと再発見事業を実施し、ふるさと郷育を推進した。</p> <p>(1) 浜田公民館 海体験 (2) 石見公民館 冬休み防災をテーマとした体験活動 (3) 長浜公民館 カヌー等海体験 (4) 国府公民館 イカの加工所見学、調理実習 (5) 周布公民館 浜っこハイヤ節、浜田音頭の伝承 (6) 美川公民館 美川歴史ウォーク (7) 大麻公民館 大麻史跡めぐり (8) 雲城公民館・今福公民館・美又公民館・久佐公民館・波佐公民館・小国公民館 金城中ふるさと学習（連携事業）等 (9) 今市公民館 梨の生産 (10) 木田公民館 梨の生産 (11) 和田公民館 和田マップ（魅力・観光資源）の作成 (12) 都川公民館 都川の棚田ウォーク (13) 市木公民館 ふるさと市木のスケッチ、長浜人形絵付け (14) 杵束公民館 「杵束の宝」・「矢縣の里」を使った学び (15) 安城公民館 「杵束の宝」・「矢縣の里」を使った学び (16) 三隅公民館 三隅兼連を中心とした三隅氏の歴史を学ぶ (17) 三保公民館 石州和紙の4工房の見学を兼ねた潮路なぎさみちウォーキング (18) 岡見公民館 うちわ祭り中学生の参画 (19) 井野公民館 夏祭りの中学生の参画 (20) 黒沢公民館 芸能祭・文化展中学生の参画 (21) 白砂公民館 キャリア職業講話、選果場見学・西条柿収穫体験</p> <p>2 各自治区の公民館が連携し、地域住民を対象としたふるさと地域学習を実施した。 (例) 旭自治区公民館連携協議会 旭中学校スケッチ会、 “あさひのいいところ”再発見ツアー、旭のひなめぐり</p>

点 検 ・ 評 価 項 目

教育委員会の評価

対象を中学生だけでなく、小学生にまで拡大し、より多くの子どもたちに自分の住んでいる地域のことを知ってもらう機会を提供し、ふるさとに愛着と誇りを持ち、次世代に伝え、守っていこうとする人材の育成を今後も進めたい。また、子どもたちだけでなく、地域のおとなも自己有用感をもち、高揚していくことを目指したい。

教育委員会自己点検・評価表

No. 39

点 検 ・ 評 価 項 目		
浜 田 市	施策の柱	Ⅲ 社会教育の推進
教育振興計画 における項目	主要施策	(1) ふるさと郷育の推進
		郷育
具 体 的 取 組		③ ふるさと教育推進事業
担 当 課		生涯学習課
内 容		<p>島根県事業である「ふるさと教育推進事業」を実施する。</p> <p>子どもたちを巡る様々な課題を解決するため、地域住民が学校教育へ参画したり自主的な学習活動や社会参加活動を促進したりするなど、学校と家庭と地域が一体となった体系的な教育活動を推進する。</p> <p>小中学校9年間を体系化し、教育課程の中で地域の「ひと・もの・こと」を活用した教育活動を年間35時間以上実施し、ふるさとへの愛着や誇りを醸成し、心豊かでたくましく、未来を担う子どもを育成する。</p> <p>また、地域ぐるみでふるさと教育の支援を行うことにより、子どもだけでなく、おとな、家庭、学校といった地域も共に高揚する。</p>
28 年 度 の 目 標		<p>全ての小中学校において、教育課程の中で地域の「ひと・もの・こと」を活用した教育活動を年間35時間以上実施し、ふるさとへの愛着や誇りを醸成し、心豊かでたくましく、未来を担う子どもを育成する。</p>
28 年 度 の 実 績		<p>1 全ての小中学校で、地域の「ひと・もの・こと」を活用したふるさと教育を年間35時間以上実施した。それぞれの小中学校で地域の特色を生かし、学年に応じて様々なふるさと教育を実施。</p> <p>(1) (例) 原井小学校</p> <p>ア 1年 なつだあそぼう（七夕飾り、シャボン玉作り）、たのしいあきいっぱい（ひのき公園、かもめ公園）等</p> <p>イ 2年 どきどきわくわく町たんけん（浜田合同庁舎、紺屋町商店街、保健所、水産技術センター・栄町商店街・城山）等</p> <p>ウ 3年 働く人とわたしたちの暮らし（ゆめタウン浜田）、工場の仕事（クボタ牛乳・いわみ食品）等</p> <p>エ 4年 環境について考えよう（海岸清掃、藻塩づくり）、郷土をひらく（ふるさとの50人活用）等</p> <p>オ 5年 浜田の魅力を伝えよう（ヒラメの放流、藻塩作り、カヌー体験、神楽衣裳制作見学）、自動車をつくる工業（ネッツトヨタ島根）等</p> <p>カ 6年 平和について考えよう（被爆体験談）、土地の作り（地層見学）等</p>
教育委員会の評価		<p>今後も小中学校におけるふるさと教育を推進し、ふるさとへの愛着や誇りを醸成し、心豊かでたくましく、未来を担う子どもを育成していく。</p> <p>また、地域ぐるみでふるさと教育の支援を行うことにより、子どもだけでなく、大人、家庭、学校といった地域の高揚も進めていく。</p>

教育委員会自己点検・評価表

No. 40

点 検 ・ 評 価 項 目		
浜 田 市	施策の柱	Ⅲ 社会教育の推進
教育振興計画 における項目	主要施策	(1) ふるさと郷育の推進
		郷育
具 体 的 取 組		④ 自然体験活動の推進
担 当 課		生涯学習課
内 容		学校教育の中で「自然体験活動」を推進し、子どもの頃から豊かな自然に触れることによって、ふるさとを愛する心を育てる。
28 年 度 の 目 標		全ての小学校、幼稚園において、授業の中で海・山・川といった自然を活用した体験活動ができるように支援を行う。
28 年 度 の 実 績		<p>自然体験活動推進事業として、支援を行い、全ての幼稚園、小学校において自然体験活動を授業の中で実施した。</p> <p>1 幼稚園</p> <p>(1) 石見幼稚園 豊ヶ浦で遊ぼう</p> <p>(2) 原井幼稚園 大豆の栽培とこれを使った加工食品づくり・ヤマメのつかみ取りと山の食材を使った料理の試食</p> <p>(3) 美川幼稚園 茶摘と茶団子作り・草木染めとヤマメのつかみ取り体験</p> <p>(4) 長浜幼稚園 やまめのつかみ取り・海辺で遊ぼう・親子バーベキュー</p> <p>2 小学校</p> <p>(1) 原井小学校 藻塩づくり及び海活動</p> <p>(2) 雲雀丘小学校 自然を発見・体験</p> <p>(3) 松原小学校 浜田の自然を感じよう</p> <p>(4) 石見小学校 秋見つけ・海の自然観察・磯遊び・海の生き物観察・バナナボート体験・塩作り体験と磯遊び</p> <p>(5) 美川小学校 浜田の自然体験推進活動</p> <p>(6) 周布小学校 秋の自然を楽しもう</p> <p>(7) 長浜小学校 冬山で自然体験（雪合戦・雪遊び）</p> <p>(8) 国府小学校 沢登り&ヤマメつかみどり体験</p> <p>(9) 三階小学校 自然に学ぼう 浜田を学ぼう</p> <p>(10) 雲城小学校 ふるさと発見・体験・探検事業</p> <p>(11) 今福小学校 スキー教室</p> <p>(12) 波佐小学校 スキー教室</p> <p>(13) 旭小学校 スキー教室・川遊び</p> <p>(14) 弥栄小学校 遠足及びスキー教室</p> <p>(15) 三隅小学校 三隅小学校自然体験活動</p> <p>(16) 岡見小学校 岡見の海を楽しむ</p>

点 検 ・ 評 価 項 目

教育委員会の評価

浜田市の海・山・川といった豊かな自然に多く触れることは、ふるさとへの愛着、ふるさとへの誇りの醸成につながる。授業の中で自然体験活動を推進することは、より多くの子どもたちのふるさとへの愛着を育む機会となる。授業での自然体験活動の支援を行うことにより、ふるさと郷育を推進することができた。

教育委員会自己点検・評価表

No. 41

点 検 ・ 評 価 項 目		
浜 田 市 教育振興計画 における項目	施策の柱	Ⅲ 社会教育の推進
	主要施策	(1) ふるさと郷育の推進
		郷育
具 体 的 取 組	⑤ 土曜学習支援事業	
担 当 課	生涯学習課	
内 容	浜田市の児童・生徒を地域で育むことに併せ、学力向上に資するため、土曜日を利用して児童・生徒の学習の場を提供する。浜田市立中央図書館多目的室を利用し、希望する中学生を対象に教育職員免許所有者等による自学（数学・英語）支援と、公民館で小学生を中心とした学習支援の2つの取組を行う。	
28 年 度 の 目 標	公民館等が主体となって行う土曜学習の機会を増やすことにより、より多くの小中学生の土曜日の充実、家庭学習の機会を提供し、学習習慣の定着、学力向上を図る。	
28 年 度 の 実 績	<p>1 浜田市立中央図書館（数学・英語） 実施回数は増加したが、参加者数は減少となった。 このため、試行的に午後開催、授業形式での開催を行った。</p> <p>(1) 自学自習によりわからないところを講師に質問する形式 (2) 実施回数 19回 [平成27年度 15回] (3) 延べ参加人数 227人 [平成27年度 326人] (4) 登録生徒数 49人 (5) 講師数 15人（教員OB 7人、大学生 8人）</p> <p>2 公民館実施館数 1館（美川公民館 小学生を対象とした英語教室） 実施公民館数が1館減少した。 [平成27年度 2館]</p>	
教育委員会の評価	<p>実施の時間、時期、内容も含め見直しを行い、より多くの小中学生が参加できるように修正を行っていく必要がある。</p> <p>1 午後開催の検討 2 授業形式の検討 3 長期休業時開催の検討</p>	

教育委員会自己点検・評価表

No. 42

点 検 ・ 評 価 項 目		
浜 田 市	施策の柱	Ⅲ 社会教育の推進
教育振興計画 における項目	主要施策	(1) ふるさと郷育の推進 教育支援
具 体 的 取 組		⑥ つなぐ、つながる事業（三世代交流・通学合宿支援）
担 当 課		生涯学習課
内 容		<p>1 三世代交流事業（公民館による実施）の支援 シニア世代と子ども及びその親世代を含めた三世代が、自然とのふれあいや様々な体験的活動を実施することにより、子どもの健全な心身の育成と豊かな人間性を育むとともに、家庭と地域とのつながりや世代間交流の場を提供する。</p> <p>2 通学合宿（公民館による実施）の支援 小学生が家庭を離れて公民館等で寝泊まりしながら小学校に通学する「通学合宿」は、家庭から離れた公民館を拠点にした「地域」という場の中で生活することによって、礼儀等のふるまいを身につけることを目的とする。また、併せて、家族の大切さを親子ともに再認識することを目的とする。</p>
28 年 度 の 目 標		三世代交流事業・通学合宿事業の支援を行うことによって、より多くの地域での事業実施を促し、家庭教育支援、ひいてはコミュニティーの活性化を図る。
28 年 度 の 実 績		<p>1 三世代交流事業 平成28年度 15事業 [平成27年度 9事業]</p> <p>(1) 浜田公民館 そうめん流し、もちつき、昔遊びと鏡開き等 (2) 石見公民館 石見地区ジョイフルソフトボール大会 (3) 国府公民館 軽スポーツ交流 (4) 周布公民館 三世代ボーリング (5) 美川公民館 しめ縄づくり交流会 (6) 大麻公民館 五月人形・雛人形展 (7) 雲城公民館 そば打ち体験を通じた三世代交流 (8) 今福公民館 川の生物観察、鮎のつかみ取り (9) 美又公民館 古民具を利用した昔の生活体験 (10) 波佐公民館 グラウンドゴルフ交流会、しめ縄作り交流会 (11) 杵束公民館 川遊び・野外炊飯 (12) 安城公民館 もちつき交流会 (13) 三隅公民館 もちつき・小正月の行事についてお話しをきく (14) 三保公民館 もちつき交流会 (15) 岡見公民館 さつまいもオーナーになろう ※三世代交流事業については、6事業増加した。</p> <p>2 通学合宿事業 平成28年度 4事業 [平成27年度 5事業]</p> <p>(1) 周布公民館、波佐公民館、杵束公民館、国府公民館(有福分館) ※通学合宿事業については、1事業減少となった。</p>

点 検 ・ 評 価 項 目

教育委員会の評価

三世代交流事業について、実施公民館のコーディネートにより、それぞれの地域の特色ある交流内容のもと、世代の異なる地域の方々と交流しながら、昔ながらの体験等を行うことにより、地域とのつながりを深めることができた。

通学合宿事業について、食事作りやもらい湯等、地域の人たちの協力を得ながら生活することによって、地域の大切さやつながりを認識し、ふるさとへの愛着や誇りの醸成を進めることができた。事業実施にあたり、各公民館の負担が大きいが、地域や大学生の協力により、地域を巻き込んだ内容とすることができた。

教育委員会自己点検・評価表

No. 43

点 検 ・ 評 価 項 目		
浜 田 市	施策の柱	Ⅲ 社会教育の推進
教育振興計画 における項目	主要施策	(1) ふるさと郷育の推進 教育支援
具 体 的 取 組		⑦ 学校支援・放課後支援・家庭教育支援事業
担 当 課		生涯学習課
内 容		浜田市が取り組んでいる、「学校支援」「放課後支援」「家庭教育支援」を結集し、学校・家庭・地域の連携による教育支援活動促進事業をより体系化し、地域ぐるみで子どもを育み子どもも地域も高まり合うもの、特に、公民館が中心となり、学校と地域をつなぎ、地域人材の参画による学校の教育活動等の支援など、学校・家庭・地域が協働で教育支援に取り組む仕組みづくりを推進し、地域の活性化を図る。
28 年 度 の 目 標		はまだっ子共育プロジェクトとして、中学校区毎のネットワーク体制を構築し、学校・家庭・地域の連携による教育支援活動をより体系化し、地域ぐるみで子どもを育み子どもも地域も高まり合うことを目指す。
28 年 度 の 実 績		<p>子どもたちを巡る様々な課題を解決するため、公民館を中心に中学校区毎のネットワークを構築し、学校と家庭と地域が一体となった体系的な教育活動を推進する。</p> <p>9中学校区のうち8中学校区においてネットワークを構築し、事業の推進を行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ネットワーク会議の開催 各中学校区毎にエリアコーディネーターを配置し、ネットワーク会議を実施した（二中校区は平成29年度に発足予定） 2 はまだっ子共育プロジェクト推進本部活動 (1) 総会 開催2回 5月31日(火)、3月16日(木) 3 エリアコーディネーター会 (1) 開催4回 5月17日(火)、7月19日(火)、12月9日(金)、2月24日(金) 4 研修 開催4回 (1) 第1回 6月22日(水) 「リスクマネジメントについて学ぶ」 講師 岡山大学 中山 芳一 氏 (2) 第2回 7月11日(月) 発達障がいについて 「夏休みを楽しく過ごすために私たちのできること」 ～対処方法や子どもを見る目について学ぶ～ 講師 島根県自閉症協会 会長 白川 英代 氏 (3) 第3回 9月20日(火) 「①遊びとはなにか？そして、子どもと遊びきる大人になるためには？」 「②放課後支援の現状を知ろう！新制度導入による放課後支援のいま」 講師 岡山大学 中山 芳一 氏

点 検 ・ 評 価 項 目

	<p>(4) 第4回 10月15日(土) 「心を育む家読の力 ～家読の推進と地域・図書館・公民館の役割～」 講師 日本福祉大学 長畑 実 氏</p>
<p>教育委員会の評価</p>	<p>9中学校区のうち8中学校区においてネットワークを構築し、事業を推進することができた。 平成29年度には、残る1中学校区においてもネットワークを構築し、より一層の推進を図る。</p>

教育委員会自己点検・評価表

No. 44

点 検 ・ 評 価 項 目		
浜 田 市 教育振興計画 における項目	施策の柱	Ⅲ 社会教育の推進
	主要施策	(2) 公民館における人材育成と拠点整備 公民館活動
具 体 的 取 組		① 公民館活動推進事業
担 当 課		生涯学習課
内 容	<p>各公民館の事業費、活動費を委託料として公民館連絡協議会に委託する。地域に根ざした公民館活動の推進を図るため、公民館は、学級・講座を実施することで地域住民の学習ニーズに応え、地域住民間の絆を築くとともに、各地のコミュニティーの形成にも寄与することで社会教育の中核を担っている。</p>	
28 年 度 の 目 標	<p>次の公民館活動を推進していく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 社会教育の特性を活かした学習拠点としての取組 2 地域づくり、地域の課題解決に向かう人材を育成する取組 3 人々が楽しく過ごせる拠点（居場所）としての取組 4 生活課題を語り合い、解決につながる各種相談の場としての取組 5 地域ぐるみで子どもを育む気運を高める取組 6 団体等に対する活動支援及びネットワークの構築の取組 7 地域情報の収集整理・受発信の取組 <p>また、公民館や地域の活動等の情報を収集し、新しい情報が地域に届けられるように広報等（広報誌、ホームページ、SNS）を通して発信、またはその仕組みを整えていく。</p>	
28 年 度 の 実 績	<p>全ての公民館において、地域に根ざした公民館活動を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 社会教育の特性を活かした学習拠点としての取組 人権研修、通学合宿等 2 地域づくり、地域の課題解決に向かう人材を育成する取組 防災講座、ふるさと再発見事業等 3 人々が楽しく過ごせる拠点（居場所）としての取組 パソコン教室、生け花教室等サロン事業 4 地域ぐるみで子どもを育む気運を高める取組 学校支援地域本部事業、放課後子ども教室等 5 団体等に対する活動支援及びネットワークの構築の取組 ネットワーク会議等 6 地域情報の収集整理・受発信の取組 全館「公民館だより」による情報発信の取組 	
教育委員会の評価	<p>それぞれの館で地域の特性を生かした公民館活動を進めている。地域の拠点として更なる公民館活動を推進していくため、より積極的な地域への情報発信を進めていく。「公民館だより」による情報発信のみならず、ホームページやSNSでの情報発信についても検討を進めていく。</p>	

教育委員会自己点検・評価表

No. 45

点 検 ・ 評 価 項 目		
浜 田 市 教育振興計画 における項目	施策の柱	Ⅲ 社会教育の推進
	主要施策	(2) 公民館における人材育成と拠点整備
		公民館活動
具 体 的 取 組	② 地域課題の解決支援事業	
担 当 課	生涯学習課	
内 容	<p>中山間地域を中心とした様々な現代的課題（交通対策、防災防犯、文化伝承、休耕田、少子高齢化、人口・労働力の減少、過疎化の進行、担い手育成等）に対し、公民館が社会教育の手法（集い・学び・結ぶ）により、行政の関係部局の垣根を越え、連携・協働して課題解決のため実施する地域独自の取組を支援し、社会教育を活性化することを通じて、地域の絆、地域コミュニティの再生及び地域活性化を図る。</p>	
28 年 度 の 目 標	<p>多くの公民館が地域住民による学習の実践や地域独自の特色ある取組を支援し、住民が主体的に地域課題の解決に取り組む意識を高め、地域人材の育成支援を進める。</p>	
28 年 度 の 実 績	<p>17館（延べ21館）の公民館において、地域の課題を解決するために取組を行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 協働のまちづくり支援事業 4館（浜田公民館、石見公民館、周布公民館、井野公民館） （例）石見公民館 いわみっ子まつり、防災力パワーアップ講座、バスでめぐる地域の歴史探訪、いわみっ子まつり子ども人権研修 2 課題解決支援事業 7館（美川公民館、雲城公民館、今福公民館、美又公民館、木田公民館、安城公民館、岡見公民館） （例）今福公民館 幻の広浜鉄道（広浜鉄道を通じて歴史を学ぶとともに地域の宝を次世代に伝えていく気持ちを育み、住民の生きがいを創出する） 3 地域課題解決型公民館支援事業 延べ10館（国府公民館、雲城公民館、金城自治区6公民館連絡協議会、今市公民館、白砂公民館） （例）雲城公民館 雲城公民館エリアにおける地域農業の将来について考える～小さな郷づくりにむけて～（集落単位で地域課題について話し合い、その結果、地域農業の将来のための取組を実施。） 	
教育委員会の評価	<p>各地域で抱えている地域課題は多種多様である。「つどう、まなぶ、むすぶ」という公民館の活動を通じて、課題解決へ取り組む人材の育成を支援していく。 公民館職員の研修を実施することにより、より多くの館が事業を実施するように支援をしていく。</p>	

教育委員会自己点検・評価表

No. 46

点 検 ・ 評 価 項 目		
浜 田 市 教育振興計画 における項目	施策の柱	Ⅲ 社会教育の推進
	主要施策	(2) 公民館における人材育成と拠点整備
		公民館活動
具 体 的 取 組	③ 人権・同和問題学習活動	
担 当 課	人権同和教育室	
内 容	市民一人ひとりが人権尊重に向けて行動できる社会の実現に、社会教育の拠点である公民館を活用した人権・同和問題学習を、地域や関係機関と連携して推進する。	
28 年 度 の 目 標	人権・同和問題学習に取り組む公民館を少しずつ広げ、最終的には全公民館で人権・同和問題学習に取り組むことで、お互いが人権を尊重し合う心豊かなまちづくりを目指す。	
28 年 度 の 実 績	<p>1 人権・同和問題学習を実施した公民館 17館 公民館独自で人権同和教育研修に取り組んだほか、指導主事を派遣しての巡回講座の実施に努めた。</p> <p>(1) 主な取組</p> <p>ア 周布公民館「同和問題講演会」 日時 平成28年6月29日（水）午後3時～ 講師 坂本 義喜 氏（元食肉解体作業員） 演題 「いのちをいただく」</p> <p>イ 大麻公民館「人権同和教育研修会」 日時 平成29年3月24日（金）午前10時～ 講師 堀口 秀樹 指導主事 演題 「自分を大切に、人を大切に」 ～自尊感情（自己肯定感）を育むために～</p>	
教育委員会の評価	人権啓発DVDを使ったビデオフォーラムやワークショップなどの手法も取り入れながら、少人数でも気軽に参加していただけるような研修会のメニューを検討し、取組が広がるよう周知に努める必要がある。	

教育委員会自己点検・評価表

No. 47

点 検 ・ 評 価 項 目																						
浜 田 市	施策の柱	Ⅲ 社会教育の推進																				
教育振興計画 における項目	主要施策	(2) 公民館における人材育成と拠点整備																				
		公民館整備																				
具 体 的 取 組		④ 公民館施設改修事業																				
担 当 課		生涯学習課																				
内 容		<p>1 地域の実情に応じ、必要な施設・設備を備えるとともに、青少年、高齢者、障がい者、乳幼児の保護者等の利用の促進が図られるよう施設・設備の確保に努める。</p> <p>2 公民館は、浜田市地域防災計画に基づき、地震・豪雨・津波等の災害時に、情報の収集や伝達をはじめ、応急対策、避難者の受入れ等の重要な地震防災機能を果たす防災拠点としての役割が期待されており、その施設・設備の確保も進める。</p> <p>3 照明や空調機器の更新時期を迎える施設や雨漏り、外壁補修等の大規模な改修を要する施設の改修を行う。</p>																				
28 年 度 の 目 標		地域の実情に応じ、必要な施設・設備を行い、地域の人たちの利用促進のための整備を行う。																				
28 年 度 の 実 績		<p>1 利用促進のための修繕や危険防止対応等を行った。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 70%;">(1) 井野公民館講堂補強工事・改修工事</td> <td style="text-align: right;">82,956,960円</td> </tr> <tr> <td>(2) 井野公民館外構工事</td> <td style="text-align: right;">9,038,520円</td> </tr> <tr> <td>(3) 三保公民館講堂照明・ステージ等改修工事</td> <td style="text-align: right;">5,875,200円</td> </tr> <tr> <td>(4) 三隅公民館作業室整備工事</td> <td style="text-align: right;">2,268,000円</td> </tr> <tr> <td>(5) 岡見公民館空調設備改修工事</td> <td style="text-align: right;">1,188,000円</td> </tr> <tr> <td>(6) 三隅公民館舞台幕購入</td> <td style="text-align: right;">405,000円</td> </tr> <tr> <td>(7) 和田公民館校庭崩落シート敷設工事</td> <td style="text-align: right;">1,285,200円</td> </tr> <tr> <td>(8) 和田公民館校庭崩落フェンス撤去工事</td> <td style="text-align: right;">658,800円</td> </tr> <tr> <td>(9) 石見公民館防犯灯設置工事</td> <td style="text-align: right;">918,000円</td> </tr> <tr> <td>(10) 石見公民館トイレ暖房便座取付</td> <td style="text-align: right;">199,800円 等</td> </tr> </table>	(1) 井野公民館講堂補強工事・改修工事	82,956,960円	(2) 井野公民館外構工事	9,038,520円	(3) 三保公民館講堂照明・ステージ等改修工事	5,875,200円	(4) 三隅公民館作業室整備工事	2,268,000円	(5) 岡見公民館空調設備改修工事	1,188,000円	(6) 三隅公民館舞台幕購入	405,000円	(7) 和田公民館校庭崩落シート敷設工事	1,285,200円	(8) 和田公民館校庭崩落フェンス撤去工事	658,800円	(9) 石見公民館防犯灯設置工事	918,000円	(10) 石見公民館トイレ暖房便座取付	199,800円 等
(1) 井野公民館講堂補強工事・改修工事	82,956,960円																					
(2) 井野公民館外構工事	9,038,520円																					
(3) 三保公民館講堂照明・ステージ等改修工事	5,875,200円																					
(4) 三隅公民館作業室整備工事	2,268,000円																					
(5) 岡見公民館空調設備改修工事	1,188,000円																					
(6) 三隅公民館舞台幕購入	405,000円																					
(7) 和田公民館校庭崩落シート敷設工事	1,285,200円																					
(8) 和田公民館校庭崩落フェンス撤去工事	658,800円																					
(9) 石見公民館防犯灯設置工事	918,000円																					
(10) 石見公民館トイレ暖房便座取付	199,800円 等																					
教育委員会の評価		<p>地域の方々が利用しやすいように整備を進めていく。</p> <p>また、各館の老朽化に伴う修繕や館の大規模な施設改修や建設も計画的に進めていく。</p>																				

教育委員会自己点検・評価表

No. 48

点 検 ・ 評 価 項 目		
浜 田 市 教育振興計画 における項目	施策の柱	Ⅲ 社会教育の推進
	主要施策	(3) 図書館サービスの充実
		図書館サービス
具 体 的 取 組	① 多様な分野の図書の充実	
担 当 課	中央図書館	
内 容	<p>地域の課題や地域住民のニーズに適した蔵書の充実に努めていく。 また、あらゆる方の読書活動に応えるために、他の読書関連施設との相互協力、連携等についても検討していく。 蔵書の充実にあたっては、購入だけでなく、寄贈等による積極的な収集に努め、中央・分館間ばかりでなく、市内の大学や読書関連施設間での図書情報の共有や図書の有効活用を進める。</p>	
28 年 度 の 目 標	<p>蔵書自体は図書購入費と寄贈によって増加していくが、約8,000冊の増加を目標とする。蔵書の増加を図るべき分野としては、絵本架を増設したことによって、その増加を図るべく児童の「絵本」と、一般書の中では貸出が多い「3門」（社会科学）や「5門」（技術）の分野を前年度よりも多く購入する。また、国立国会図書館の「デジタル化資料送信サービス」を導入することによって、インターネットで閲覧できる資料も含めて、蔵書の充実を図る。</p>	
28 年 度 の 実 績	<p>蔵書数は、購入分と寄贈分を併せて25万5千冊余りとなり、前年比1万冊を越える増加となった。また、絵本については、前年比150冊の増、一般書の「3門」は同じく110冊、「5門」は同じく90冊それぞれ増加させて充実を図った。また、国立国会図書館の「デジタル化資料送信サービス」も、8月に認可され、共用している。</p>	
教育委員会の評価	<p>前年度との比較によって、充実すべき図書の構成を検討する手法を今後も継続して取り組むことによって、図書館の蔵書はより多くの利用者に満足されるものとなることを期待する。また、レファレンスの質問等から充実させるべき図書の分野のヒントも導き出されると思われ、図書館運営の車輪の両輪として認識をより一層深めていく。</p>	

教育委員会自己点検・評価表

No. 49

点 検 ・ 評 価 項 目		
浜 田 市 教育振興計画 における項目	施策の柱	Ⅲ 社会教育の推進
	主要施策	(3) 図書館サービスの充実
		図書館サービス
具 体 的 取 組	② レファレンスサービスの充実	
担 当 課	中央図書館	
内 容	<p>さまざまな市民が来館する図書館において、市民ニーズに応え、地域課題に役立つ情報の提供ができることの一つに「レファレンスサービス（参考・調査の手伝い）」がある。利用者と向き合いつつ、いかに感じよく対応できるかもそのスキルの一つと認識され、それら接客術も含めての充実を図る。</p>	
28 年 度 の 目 標	<p>司書資格保持者は、県立図書館主催の専門研修を受講することは必須であるが、図書館で休館日に行う「全体研修」も受講することによって、図書館員が必要なスキルを充実させていく。また、司書資格を持つ非常勤職員を6名から7名に増員させる。</p>	
28 年 度 の 実 績	<p>県立図書館の研修は受講し、館内での研修は、「蔵書点検」時期には実施できなかったため、合計11回の実施となった。司書資格を持つ職員数は6名のままであった。</p>	
教育委員会の評価	<p>市史編纂室の協力によって、「郷土資料研修」は年3度にわたり実施することができ、救急救命講習をほとんどの職員が受講したことで、「まちかど救急ステーション」として認定された。他の研修によっても様々な知識や技術を取得できた。</p>	

教育委員会自己点検・評価表

No. 50

点 検 ・ 評 価 項 目		
浜 田 市	施策の柱	Ⅲ 社会教育の推進
教育振興計画 における項目	主要施策	(3) 図書館サービスの充実 図書館サービス
具 体 的 取 組		③ 「特集展示」コーナーの充実
担 当 課		中央図書館
内 容		市民の図書選びや図書館の蔵書との出会いの機会を増やすために、中央図書館においては、一般書については毎月館内で「特集展示」を行い、それらの展示図書の「ブックリスト」を作成して利用者にも配布している。同時に、児童書コーナーでも、毎月「読み聞かせ」の本のテーマを決め、テーマに合わせた図書を展示している。
28 年 度 の 目 標		中央図書館だけでなく、分館においても「特集展示」を行い、司書資格を持つ職員が輪番で「おすすめの1冊」を「広報はまだ」で毎月紹介し、翌月には館内でも同様の展示を実施していく。また、緊急の特集があれば随時展示を行い、ひと月内に受け入れた図書のリストを作成し、利用者に配布していく。
28 年 度 の 実 績		<p>中央図書館をはじめ、分館においても「特集展示」を毎月行った。職員が輪番で「おすすめの1冊」を「広報はまだ」で毎月紹介し、翌月には館内の紹介コーナーで展示を行った。</p> <p>1 中央図書館の特集展示（28年度実績）</p> <p>4月 春です！ガーデニング</p> <p>5月 課題図書もう一度読んでみませんか</p> <p>6月 雨の日の読書のススメ</p> <p>7月 夏だ！野外へ飛び出そう!!（アウトドアで過ごす夏）</p> <p>8月 今年の夏はやっぱりブラジル！</p> <p>9月 今年こそ「がん」にうち勝つ（がん征圧月間に寄せて）</p> <p>10月 あの本が映画に?! 映画原作の世界</p> <p>11月 読書の秋！受賞作品読んでみませんか</p> <p>12月 パーティ料理からおせちまで 年末年始はこれで決まり！</p> <p>1月 YA（ヤングアダルト）で読む夢のお仕事大集合</p> <p>2月 大人にこそ読んで欲しい！YAで読む日本と世界の文学</p> <p>3月 えっ！こんなものも 写真集集めてみました</p>
教育委員会の評価		「特集展示」は利用者からの認知度も高く、貸出される頻度も高い傾向がうかがえるが、更に充実させるために、展示の工夫等を実施していくことが必要である。「広報はまだ」での図書紹介もこのまま実施し、県立大学の蔵書を紹介する機会も増やすなどして、今後更に展示の充実を図っていく必要がある。

教育委員会自己点検・評価表

No. 51

点 検 ・ 評 価 項 目		
浜 田 市 教育振興計画 における項目	施策の柱	Ⅲ 社会教育の推進
	主要施策	(3) 図書館サービスの充実
		図書館サービス
具 体 的 取 組	④ ボランティア登録者数の増加	
担 当 課	中央図書館	
内 容	<p>読書活動団体による読み聞かせや朗読、IT技術を利用した独特のおはなし会を実施する団体などの支援を受けて、就学前の子どもが、読書に関心を持つきっかけ作りに役立つ活動を行っていく。</p> <p>併せてこれらボランティア活動を更に発展させるための活動支援、人材育成に取り組む。</p>	
28 年 度 の 目 標	<p>ボランティアの入門講座とボランティアの研修・交流会への支援をそれぞれ1回ずつ行い、それに併せて図書館等で活動できるボランティアを募集することによって、高齢化しつつあるボランティア全体の底上げを図る。</p>	
28 年 度 の 実 績	<p>ボランティア研修・交流会への支援が1回にとどまったが、定期的実施されるボランティアの定例会議に出席することによって、ボランティアの意図と図書館実務との橋渡しを行った。</p>	
教育委員会の評価	<p>「子どもの読書等推進の会」を中心に、講演会の企画を実現させることによって、多くの方に参加いただける講演会を開催することができた。今後も、ボランティアの増加を図るにはどうしたらよいかを、協議・検討しながら、社会教育活動としてのボランティア活動を維持・発展させるべく検討をしていく必要性を感じる。</p>	

教育委員会自己点検・評価表

No. 52

点 検 ・ 評 価 項 目		
浜 田 市	施策の柱	Ⅲ 社会教育の推進
教育振興計画 における項目	主要施策	(3) 図書館サービスの充実 図書館サービス
具 体 的 取 組		⑤ 移動図書館車・簡易閲覧所の運用
担 当 課		中央図書館
内 容		<p>市内33箇所を巡回する移動図書館「ラブック号」は、図書館まで足を運ぶことのできない方への貴重な読書機会提供の場となっている。</p> <p>また、市内13箇所に設置した佐々田奉公会簡易閲覧所にも、年2回の資料更新を行いながら、2,000冊程度の配本を提供しており、市民に気軽に利用いただける場となっている。</p> <p>これらの設備、施設を継続して運営するとともに、より一層の利用促進に努める。</p>
28 年 度 の 目 標		<p>1 「ラブック号」の運行 12回 貸出6,000冊</p> <p>2 「簡易閲覧所」の運用と所蔵資料の入れ替え作業 年2回 貸出冊数 700冊</p> <p>3 広報・周知による利用促進 随時</p>
28 年 度 の 実 績		<p>1 「ラブック号」の運行 12回 貸出4,609冊</p> <p>2 「簡易閲覧所」の運用と所蔵資料の入れ替え作業 年2回 貸出冊数 721冊</p> <p>3 広報・周知による利用促進 随時</p>
教育委員会の評価		<p>年々利用者の数は減少傾向にあるが、中央図書館や分館まで足を運べない利用者にとっては、どちらも貴重な読書の機会の提供であり、今後も継続して実施していく必要があるものと推察する。特にラブック号に関しては、小学生にとって貴重な資料取得の場となっており、全体の6割程度の利用実績となっている。</p>

教育委員会自己点検・評価表

No. 53

点 検 ・ 評 価 項 目		
浜 田 市	施策の柱	Ⅲ 社会教育の推進
教育振興計画 における項目	主要施策	(3) 図書館サービスの充実 図書館サービス
具 体 的 取 組		⑥ 子どもの読書週間、秋の読書週間での読書活動推進事業
担 当 課		中央図書館
内 容		各読書週間においては、おはなしボランティアとの協働により、中央図書館をはじめ各分館で行う読書関連行事を通じて、本そのものへの興味を喚起する活動を実施していく。
28 年 度 の 目 標	1 2	子ども読書週間（4月から5月）に合わせた各種行事の開催 1回 秋の読書週間（10月から11月）に合わせた各種行事の開催 1回
28 年 度 の 実 績	1 2	子ども読書週間（4月から5月）に合わせた各種行事の開催 1回 （霞ヶ石玄武岩に関する講演会） 秋の読書週間（10月から11月）に合わせた各種行事の開催 2回 （本のリサイクル市、特別上映会）
教育委員会の評価		月別の利用状況を見ると、夏季休暇期間(7月・8月)に増加する傾向が伺える。読書週間に加えて、これらの時期にも図書館を広く市民に知っていただくことで、利用拡大を図りたい。また、両読書週間においても、新手法での利用拡大を目指す方途を考案し、継続的に利用者獲得を図りたい。

教育委員会自己点検・評価表

No. 54

点 検 ・ 評 価 項 目		
浜 田 市 教育振興計画 における項目	施策の柱	Ⅲ 社会教育の推進
	主要施策	(3) 図書館サービスの充実
		図書館サービス
具 体 的 取 組	⑦ 電子書籍などの新たな情報への対応	
担 当 課	中央図書館	
内 容	<p>電子書籍については、開館当初に1,100余タイトルを導入し、利用者向けの「利用講座」等を実施することで認知度が高まった。中央図書館では廃刊になった新聞のデータ化を実施し、館内での閲覧も可能となっている。</p> <p>これら電子媒体の利用法を含め、活用の機会を増大させる。</p>	
28 年 度 の 目 標	<p>1 「電子書籍」の計画的な購入</p> <p>2 パンフレット、広報周知、電子書籍閲覧講座等開催による利用促進</p>	
28 年 度 の 実 績	<p>1 「電子書籍」の購入 104点</p> <p>2 広報による周知の実施</p>	
教育委員会の評価	<p>非来館サービスとしての「電子書籍」の有効性をアピールし、様々な機会を捉えてその利用法を知っていただく活動を継続して行っていく。「利用講座」を復活させることによって、より簡便になった使い方をアピールすると同時に、利用者が喜ぶコンテンツを吟味・検討することによって、利用者を発掘していく。</p>	

教育委員会自己点検・評価表

No. 55

点 検 ・ 評 価 項 目		
浜 田 市	施策の柱	IV 生涯スポーツの振興
教育振興計画 における項目	主要施策	(1) スポーツ・レクリエーション活動の推進
		スポーツ推進
具 体 的 取 組	① 総合スポーツ大会の開催	
担 当 課	生涯学習課	
内 容	<p>体育の日を中心に子どもから高齢者まで誰でも参加できる浜田市体育協会としての総合スポーツ大会を開催し、市民の親睦を図り、スポーツの振興と競技力の向上、健康増進の推進を目的とする。</p>	
28 年 度 の 目 標	<p>各競技団体が開催する大会に一人でも多く参加していただき、大会を盛上げるとともに競技力向上を目指す。</p>	
28 年 度 の 実 績	<p>1 主な事業</p> <p>(1) 第10回浜田市総合スポーツ大会</p> <p>ア 日時 平成28年10月9日～平成29年2月4日</p> <p>イ 会場 島根県県立体育館 他</p> <p>ウ 開催競技数 20競技（陸上、水泳、軟式野球、卓球、ゲートボール、グラウンドゴルフ等）</p> <p>エ 参加人数 2,397人</p> <p>オ 参加団体 競技・スポーツ団体 16団体 生涯スポーツ団体 4団体</p>	
教育委員会の評価	<p>第10回の記念大会について、競技種目の中で運営方法や日程設定の関係の要因により、前年よりも187人参加者の減となったことから、参加者を増やすことを目標に取り組んでいきたい。</p> <p>体育協会への補助は、いずれの団体においても、重要で大切な活動支援となっており、市民皆スポーツの一助になっている。</p>	

教育委員会自己点検・評価表

No. 56

点 検 ・ 評 価 項 目																																						
浜 田 市	施策の柱	IV 生涯スポーツの振興																																				
教育振興計画 における項目	主要施策	(1) スポーツ・レクリエーション活動の推進																																				
		スポーツ推進																																				
具 体 的 取 組		② 浜田市体育協会によるスポーツ振興事業																																				
担 当 課		生涯学習課																																				
内 容		<p>浜田市体育協会は競技スポーツ19団体、生涯スポーツ4団体、地域スポーツ5団体、学校・青少年スポーツ3団体、総合型地域スポーツクラブ4団体の計35団体で形成されている。</p> <p>各団体は、浜田市スポーツ都市宣言に基づき、地域の交流、健康増進、競技力の向上の推進を図ることを目的として運営しており、助成金を交付する。</p>																																				
28 年 度 の 目 標		<p>浜田市民の体育・スポーツの普及振興を図り、市民の体力向上、健康増進と、地域の活性化の推進、明るく豊かなまちづくりを目指す。</p> <p>浜田市体育協会合併10周年を迎えることから記念事業を開催する。</p>																																				
28 年 度 の 実 績		<p>1 助成金 それぞれの団体、組織が助成金を活用し、スポーツ振興の普及や大会等を実施した。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>(1) 競技スポーツ団体</td> <td style="text-align: right;">18団体</td> <td style="text-align: right;">2,980,000円</td> <td></td> </tr> <tr> <td>(2) 生涯スポーツ団体</td> <td style="text-align: right;">4団体</td> <td style="text-align: right;">405,000円</td> <td></td> </tr> <tr> <td>(3) 学校スポーツ</td> <td style="text-align: right;">2団体</td> <td style="text-align: right;">150,000円</td> <td></td> </tr> <tr> <td>(4) 自治区体協</td> <td style="text-align: right;">5地区</td> <td style="text-align: right;">420,000円</td> <td></td> </tr> <tr> <td>(5) 育成強化団体</td> <td style="text-align: right;">3団体</td> <td style="text-align: right;">300,000円</td> <td style="text-align: right;">計 4,255,000円</td> </tr> </table> <p>2 体育協会10周年記念事業 4つの事業を実施し、好評だった。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>(1) 星野 仙一 氏（東北楽天ゴールデンイーグルス副会長）講演会</td> <td style="text-align: right;">750人</td> </tr> <tr> <td>8月28日（日） 石央文化ホール</td> <td></td> </tr> <tr> <td>(2) グラウンドゴルフ大会</td> <td style="text-align: right;">181人</td> </tr> <tr> <td>10月24日（日） 浜田市陸上競技場</td> <td></td> </tr> <tr> <td>(3) ゲートボール大会</td> <td style="text-align: right;">86人</td> </tr> <tr> <td>11月6日（日） ふれあい広場 16チーム</td> <td></td> </tr> <tr> <td>(4) ウォーキング大会</td> <td style="text-align: right;">72人</td> </tr> <tr> <td>3月12日（日） 浜田漁港を巡るみち5km</td> <td></td> </tr> </table>	(1) 競技スポーツ団体	18団体	2,980,000円		(2) 生涯スポーツ団体	4団体	405,000円		(3) 学校スポーツ	2団体	150,000円		(4) 自治区体協	5地区	420,000円		(5) 育成強化団体	3団体	300,000円	計 4,255,000円	(1) 星野 仙一 氏（東北楽天ゴールデンイーグルス副会長）講演会	750人	8月28日（日） 石央文化ホール		(2) グラウンドゴルフ大会	181人	10月24日（日） 浜田市陸上競技場		(3) ゲートボール大会	86人	11月6日（日） ふれあい広場 16チーム		(4) ウォーキング大会	72人	3月12日（日） 浜田漁港を巡るみち5km	
(1) 競技スポーツ団体	18団体	2,980,000円																																				
(2) 生涯スポーツ団体	4団体	405,000円																																				
(3) 学校スポーツ	2団体	150,000円																																				
(4) 自治区体協	5地区	420,000円																																				
(5) 育成強化団体	3団体	300,000円	計 4,255,000円																																			
(1) 星野 仙一 氏（東北楽天ゴールデンイーグルス副会長）講演会	750人																																					
8月28日（日） 石央文化ホール																																						
(2) グラウンドゴルフ大会	181人																																					
10月24日（日） 浜田市陸上競技場																																						
(3) ゲートボール大会	86人																																					
11月6日（日） ふれあい広場 16チーム																																						
(4) ウォーキング大会	72人																																					
3月12日（日） 浜田漁港を巡るみち5km																																						
教育委員会の評価		<p>少子高齢化に伴う人口減少により、競技スポーツ団体の加盟者数も減少しているが、生涯スポーツ実施人口は増えている。</p> <p>全体をとおしてみれば助成金を有効活用し運営されている。</p> <p>また、体育協会10周年記念事業も多く市民の参加のもと、成功裡に終了することができた。</p> <p>今後もスポーツの普及、体力の向上、健康増進と地域の活性化を推進していくよう努める。</p>																																				


教育委員会自己点検・評価表

No. 57

点 検 ・ 評 価 項 目		
浜 田 市 教育振興計画 における項目	施策の柱	IV 生涯スポーツの振興
	主要施策	(1) スポーツ・レクリエーション活動の推進
		スポーツ推進
具 体 的 取 組	③ 「体操のまち 浜田」振興事業	
担 当 課	生涯学習課	
内 容	竹本正男選手・上迫忠夫選手の2人のオリンピックメダリストを輩出した浜田市の体操界。その世界をも引っ張った「体操のまち 浜田」復活に向け、強化・支援をしていく。	
28 年 度 の 目 標	平成28年度は、全国高等学校総合体育体大会体操競技大会が、8月2日から5日の間、島根県立体育館(竹本正男アリーナ)で開催されることが予定されており、多くの方々が来浜される。 地元選手が活躍できるよう取り組むとともに、来場される方々に満足していただくよう準備を進める。	
28 年 度 の 実 績	1 浜田市からの補助金額 4,350,000円 2 主な事業 (1) 「体操のまち浜田振興事業」強化・育成会議 ア 実施日 (ア) 第8回 平成28年 4月 2日(土) (イ) 第9回 平成28年 9月10日(土) (ウ) 第10回 平成28年12月24日(土) (エ) 第11回 平成29年 3月25日(土) イ 参加者 浜田市体育連盟、各団体関係者、生涯学習課 ウ 内 容 各団体の取組と成果について(情報共有) 今後の取組について 等 (2) 各選手の強化支援	
教育委員会の評価	平成28年8月2日から5日まで間に開催された全国高等学校総合体育体大会体操競技大会に、浜田高校の男女体操団体がアベック出場を果たした。 また、平成30年度には、全国中学校体育大会の体操競技が島根県立体育館(竹本正男アリーナ)で開催されることとなり、それを目指して、強化練習も開催されており、今後も、「体操のまち 浜田」復活のため、各事業を支援していくこととしたい。	

教育委員会自己点検・評価表

No. 58

点 検 ・ 評 価 項 目		
浜 田 市 教育振興計画 における項目	施策の柱	IV 生涯スポーツの振興
	主要施策	(2) スポーツ精神の高揚と競技力の向上 競技スポーツ
具 体 的 取 組		① 「J F A夢の教室」の開催
担 当 課		生涯学習課
内 容		子どもたちの心身の健全な成長に寄与することを目的として、J F Aこころのプロジェクト「夢の教室」等の開催により、フェアプレー精神、夢を持つことの素晴らしさ、また、それに向かって努力することの大切さや失敗や挫折に負けない心の強さを始め、人間の形成に欠くことのできない礼節の尊重、友情を育むことなど「スポーツ精神」の高揚を図る。
28 年 度 の 目 標		J F Aこころのプロジェクト「夢の教室」を市内で2回開催する。
28 年 度 の 実 績		<p>1 こころのプロジェクト「夢の教室」 J F A (公益財団法人 日本サッカー協会)のこころのプロジェクト「夢の教室」を原井小学校及び松原小学校で実施した。前半は、ゲームの時間で先生との距離を縮め、後半はトークの時間で夢先生による授業を行った。</p> <p>(1) 開催日 平成29年1月31日(火) (2) 夢先生 富平 辰文 氏 (元K-1選手) 平間 智和 氏 (元サッカー選手) ※アシスタント (3) 参加者数 原井小学校 5年生 (29人) 松原小学校 5年生 (29人) (4) 内容 ア ゲームの時間 ボールを使ったゲーム イ トークの時間 夢をかなえるまでの話と、児童の夢の発表</p> 

点 検 ・ 評 価 項 目

教育委員会の評価

元トップアスリートである夢先生から夢を持つことの大切さ、続けることの大切さを聞くことで、子どもたちが、スポーツの良さ・楽しさを肌で感じることができ、とても有意義であると感じている。
交流をした児童にも、実施後に目に見えて生活態度や諸活動への取組の姿勢に変化があったとの声もあり、可能な限り継続し、実施回数の増加を図りたい。

教育委員会自己点検・評価表

No. 59

点 検 ・ 評 価 項 目		
浜 田 市	施策の柱	IV 生涯スポーツの振興
教育振興計画 における項目	主要施策	(2) スポーツ精神の高揚と競技力の向上
		競技スポーツ
具 体 的 取 組		② トップアスリートなどの各種スポーツ教室の開催
担 当 課		生涯学習課
内 容		各種競技のトップアスリートによる子どもたちへの指導の機会について、競技団体等への支援、協力や連携等を行い、トップアスリートを講師として、各種スポーツ教室等を実施する。
28 年 度 の 目 標		さまざまな競技種目のトップアスリートを招聘することで、高いレベルのスポーツに触れる貴重な機会（実技指導や体験談の聴講など）を提供することにより、競技力の向上につなげる。
28 年 度 の 実 績		1 千葉すず Swim Clinic (1) 実施日等 平成28年9月25日(日) アクアみすみ (2) 内容 ア 千葉 すず クロール教室 (参加者 30人) イ 山本 貴司 バタフライ教室 (参加者 30人) ウ 寺川 綾 陸上トレーニング教室 (参加者 30人) エ 寺川 綾 背泳ぎ教室 (参加者 30人)
教育委員会の評価		トップアスリートによる指導により競技力が向上するとともに、普段の練習の姿勢や生活態度を振り返る機会にもなり、競技者がスポーツの良さ・楽しさを肌で感じることができ、とても有意義であると感じている。


教育委員会自己点検・評価表

No. 60

点 検 ・ 評 価 項 目		
浜 田 市 教育振興計画 における項目	施策の柱	IV 生涯スポーツの振興
	主要施策	(3) スポーツ・レクリエーション環境の整備
		スポーツ環境整備
具 体 的 取 組	① 学校開放事業	
担 当 課	生涯学習課	
内 容	スポーツに親しむことができる環境を提供するために小学校・中学校の体育施設設備を開放する。	
28 年 度 の 目 標	今年度の目標としては、21校を114団体へ開放し、スポーツの振興に取り組む。また、利用者連絡会議や管理指導者及び学校との連絡などを徹底し、現在の課題や問題などを調整・解決し、円滑な開放を目指す。	
28 年 度 の 実 績	28年度における利用団体は、114団体（浜田91団体、金城6団体、弥栄1団体、三隅16団体）で、利用学校は21校であった。 2月に浜田自治区、三隅自治区の利用者連絡会議を開催し、学校開放の事務の流れ、キャンセルに伴う使用料の取り扱い、利用上のルールなどを徹底した。学校と利用団体との調整など頻繁に行い、行き違いのないように心がけた。	
教育委員会の評価	スポーツに親しむ環境として学校開放により学校施設が有効に利用されていることは評価できる。 利用にあたっては、利用者のモラル・ルールの徹底等が課題であるため、利用者連絡会議等で周知・改善していく。	

教育委員会自己点検・評価表

No. 61

点 検 ・ 評 価 項 目		
浜 田 市	施策の柱	IV 生涯スポーツの振興
教育振興計画 における項目	主要施策	(3) スポーツ・レクリエーション環境の整備
		スポーツ環境整備
具 体 的 取 組		② 運動施設整備事業
担 当 課		生涯学習課
内 容		運動施設の老朽化等により改修を行い、安全・安心に利用でき、また市民のニーズに応じた運動施設の確保・整備を行う。
28 年 度 の 目 標		運動施設の老朽化等により改修を行い、安全・安心に利用でき、また市民のニーズに応じた運動施設の確保・整備を行う。 財源としては、可能な限り日本スポーツ振興センターの助成金を活用し施設整備を図る。
28 年 度 の 実 績		<p>1 主な改修</p> <p>(1) 浜田市東公園 陸上競技場の出入口改修を行った。野球場では外野フェンス、バックネット等の改修工事を実施した。また、浜田市室内プールでは平成27年度から実施している屋根の改修及び非常灯の取替工事等を実施した。</p> <p>(2) 金城総合運動公園 浄化槽の改修工事を実施した。また、老朽化した移動式バスケットゴール2式を購入した。</p> 
教育委員会の評価		<p>建築から長期間経過した施設が多く、補修が頻繁に必要となっている。財政的な制約もあり、全ての補修は難しい状況が続いているが、危機管理上、利用者の安全面を考慮した最低限の補修を行う必要がある。</p> <p>スポーツ施設の移設・適正配置について検討するため、利用者等の意見集約を速やかに行い、今後の配置計画を策定する必要がある。</p> <p>また、これまで財源の一部として日本スポーツ振興センターの助成金を活用していたが、採択が厳しくなっており、他の財源の活用も検討する必要がある。</p> <p>多くの施設で老朽化が進み、突発的な修繕が発生しており計画的な改修の実施が困難な状況である。</p>

教育委員会自己点検・評価表

No. 62

点 検 ・ 評 価 項 目		
浜 田 市 教育振興計画 における項目	施策の柱	IV 生涯スポーツの振興
	主要施策	(3) スポーツ・レクリエーション環境の整備
		軽スポーツ
具 体 的 取 組	③ 軽スポーツ活動の推進	
担 当 課	生涯学習課	
内 容	地域における生涯スポーツの普及を図ることを目的とする。また、市内のイベントに参加することにより、レクリエーション活動の普及に努める。	
28 年 度 の 目 標	スポーツ推進委員との連携による、地域事情に合ったスポーツの普及を図る。 幅広い年齢層でプレーできる軽スポーツの推進を図る。	
28 年 度 の 実 績	<p>自治区ごとに、主に以下のスポーツの推進及び普及を図った。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 浜田自治区 ニュースポーツ「バウンスボール」、「インドアクッパ」のファミリースポーツ教室(5ヵ所、144人参加)と軽スポーツの集い(78人参加)を開催した。また、石見公民館及び分館において6回の軽スポーツ教室を開催した。 2 金城自治区 各種イベントへの運営補助を行うほか、総合型地域スポーツクラブの役員として様々なフットサルやグラウンドゴルフ等の教室への参加・協力を行った。(総合型スポーツクラブ アスレチックきんた等主催) 3 旭自治区 雪合戦・地区体育大会等の事業の実施や運営補助を行った。(実行委員会、各自治会等主催) 4 弥栄自治区 スポーツ教室を毎週月曜日に開催しファミリーバドミントン等の軽スポーツの普及に努めた。また、弥栄スポーツ大会及びファミリーバドミントン大会を開催した。(自治区弥栄体育協会 主催) 5 三隅自治区 ウォーキングの指導・補助、ドッジボール大会、地区運動会、スポーツ交流会及びみすみスポーツクラブ祭りの運営補助を行った。(総合型スポーツクラブ みすみスポーツクラブ等主催) 	
教育委員会の評価	<p>スポーツ推進委員との連携により実施した事業は、各地区ごとに特色のある活動ができた。</p> <p>その他、浜田レクリエーション協会のスポ・レク広場・浜田市体育協会主催の浜田市総合スポーツ大会の運営補助をはじめとした様々なイベントの補助や支援等により、スポーツ・軽スポーツやレクリエーションの普及を図った。</p>	

教育委員会自己点検・評価表

No. 63

点 検 ・ 評 価 項 目		
浜 田 市 教育振興計画 における項目	施策の柱	V 歴史・文化の伝承と創造
	主要施策	(1) 芸術・文化の振興
		文化
具 体 的 取 組	① 石央文化ホールの管理運営	
担 当 課	文化振興課	
内 容	石央文化ホールの収容力を活かして、大・中規模な公演や市民参加型イベント等を開催し、市民が身近に発表に触れる機会を提供することにより、潤いのある文化のかおる生活を実感するため、石央文化ホールでの音楽・演劇公演などを開催するとともに、文化施設を芸術文化活動の発表の場として利用するよう促進する。	
28 年 度 の 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1 浜田地域の芸術文化の振興のための事業実施。 2 安定した施設経営のため、施設利用率の向上（集客力のある事業の企画と実施）。 3 計画的な施設設備の修繕、改修の実施。 4 利用人数（平成33年度） 55,000人 	
28 年 度 の 実 績	<ol style="list-style-type: none"> 1 石央文化ホールでの公演は、日本のスタンダードナンバーを有名歌手が紹介するNHK BS プレミアム 公開録画「新・BS日本のうた」、自主映画の企画・上演、ホワイエを活用したロビーコンサート、市民参加イベント「第3回石央紅白歌合戦」などを実施した。 2 利用人数 56,374人 	
教育委員会の評価	石央文化ホールについては、住民参加型のイベントにおいて観客数が増加していると考えられる。効果的で集客力と魅力にあふれる企画や事業運営のための方策を検討し、実施していくことが望まれる。更なる効率的な運営と、個性を活かした企画の立案が期待される。	

教育委員会自己点検・評価表

No. 64

点 検 ・ 評 価 項 目		
浜 田 市	施策の柱	V 歴史・文化の伝承と創造
教育振興計画 における項目	主要施策	(1) 芸術・文化の振興 芸術
具 体 的 取 組		② 世界こども美術館の管理運営
担 当 課		文化振興課
内 容		<p>海外の子どもたちとの文化交流をはじめ、美術造形等の芸術家との直接的な交流を通じ、豊かで多様性のある活動を実施する。 また、子どもに限らず市民の知識及び芸術文化振興の意識を啓発できるような事業を実施する。</p>
28 年 度 の 目 標		<p>次代を担う子どもたちの創造力を養い感性を育む事業の実施や子どもや市民の芸術文化意識の向上のための各種事業を実施し、入館者数の増加を図る。 (1) 美術館における創作活動等の受講者数（平成33年度）10,000人</p>
28 年 度 の 実 績		<p>世界こども美術館において、市内小学校との連携により実施のミュージアムスクールを実施した（ミュージアムスクールは、展覧会鑑賞及び創作活動の両方を行う。）。また、週末開催の創作活動ワークショップについても、多様な講座を用意し実施した。</p> <p>(1) 体験型現代美術展「アートの秘密基地」、木を素材とした作品を紹介した「そっくり彫刻展」ほか、地域密着型の企画として「浜田高校ゆかりの作家たち」など7回の展示会を開催した。 企画展入館者数 27,960人 (2) 美術館における創作活動等の受講者数 10,082人</p>
教育委員会の評価		<p>ミュージアムスクールについては、既に定着した事業であり、市内小学校はもちろんのこと市外の学校からの参加も多く、今年度も市外からの参加が市内からの参加を上回る状況が続いている。今後とも、引き続き広域的なPRを進めていく必要がある。 創作活動ワークショップは、毎年多様な講座が開催され、親子での参加はもちろんのこと、多くの子もたちで週末の創作室は賑わっている。今後においても、魅力ある講座の開発並びに講師の発掘に努めていくほか、講座の開催にあたっては職員の負担を考慮し、ボランティアスタッフの発掘や活用についてさらに推し進める必要がある。</p>

教育委員会自己点検・評価表

No. 65

点 検 ・ 評 価 項 目		
浜 田 市 教育振興計画 における項目	施策の柱	V 歴史・文化の伝承と創造
	主要施策	(1) 芸術・文化の振興
		芸術
具 体 的 取 組	③ 石正美術館の管理運営	
担 当 課	文化振興課	
内 容	<p>三隅町出身の日本画家「石本正画伯」の作品を収蔵・展示し、市民や全国に向けて石本画伯の芸術と美への感動を発信し、継承する。 また、ユネスコ無形文化遺産である石州半紙や石州和紙を活用した創作活動の作品の展示など、地域独自の芸術文化も合わせて発信拠点とする。</p>	
28 年 度 の 目 標	<p>石本正画伯の作品の収蔵・展示を継続し、魅力ある展覧会事業や絵画教室等を行うとともに、ギャラリー展示にも積極的に取り組み、地域に開かれた美術館として入館者数の増加を図る。</p>	
28 年 度 の 実 績	<p>本館・新館を利用して、日本画家・石本正画伯作品の新作展など6回の特別展を開催するほか、石本正ゆかりの作家の作品展、地元作家の展覧会など7回の企画展を開催した。また「石見の地に心ある本物の作品と文化を残したい」という石本画伯の思いを受けた碧い石見の芸術祭の柱である第2回石本正日本画大賞展を開催し、全国の学生たちの創作活動を奨励した。</p> <p>(1) 企画展入館者数 14,914人 (2) 絵画教室等受講者数 714人</p>	
教育委員会の評価	<p>石正美術館においては、多彩な自主事業開催など館の特長を活かした企画展や各種教室の開設、展覧会イベントの実施など、市民により開かれた施設として創意工夫が見られるにもかかわらず入館者数が減となった。 今後とも、より地域に密着した美術館を目指すとともに、市外への情報発信も積極的に行っていく必要がある。</p>	


教育委員会自己点検・評価表

No. 66

点 検 ・ 評 価 項 目		
浜 田 市 教育振興計画 における項目	施策の柱	V 歴史・文化の伝承と創造
	主要施策	(1) 芸術・文化の振興
		文化振興
具 体 的 取 組	④ 市民による文化活動への支援	
担 当 課	文化振興課	
内 容	市民の文化活動の振興を推進し、地域性豊かな文化の創造や文化意識の高揚を図るため、市美術展等の事業を実施するとともに、文化協会・文化団体等の活動支援及び活動に対する各種助成制度の活用支援を進める。	
28 年 度 の 目 標	文化活動の振興と文化意識の高揚、観賞機会の拡充のため、市美術展（毎年）や市民芸術文化祭（隔年）など、従前の各種事業の継続的な実施とともに、各種助成の積極的な周知と、申請に関わる支援を行う。	
28 年 度 の 実 績	<p>文化協会並びに文化団体等の活動支援として、47の事業を後援するほか、市民への周知活動の支援、広報での周知を図った。</p> <p>また、助成事業の活用については2施設5校において、しまね文化ファンド、エネルギー文化財団、文化庁、県教委等から総額17,728,000円の助成を受けた。</p> <p>1 市美術展の開催 (1) 実績（一般の部のみ） ア 出品点数 265点 イ 入館者数 1,207人</p>	
教育委員会の評価	<p>文化協会等において、効果的な事業運営のための市民への周知活動についての支援や広報依頼ほか、助成制度の積極的な活用がうかがわれた。今後も引き続き、事業周知など支援が必要である。</p> <p>市美術展については、総出品数において減少した。しかしながら、展示スペースの現状を考慮すると、出品数の大幅な増加は難しいと思われるので現状維持以上を目指していきたいと考えている。</p>	

教育委員会自己点検・評価表

No. 67

点 検 ・ 評 価 項 目		
浜 田 市 教育振興計画 における項目	施策の柱	V 歴史・文化の伝承と創造
	主要施策	(1) 芸術・文化の振興 文化振興
具 体 的 取 組		⑤ 子どもを育む文化振興
担 当 課		文化振興課
内 容		<p>次代を担う子どもに、プロによる生の演奏や舞踊など本物の芸術の鑑賞や体現する機会を提供し、豊かな情操を育むためスクールコンサートの実施等を支援する。</p> <p>また、文化庁補助事業等（文化芸術による子供の育成事業〔巡回公演事業〕・〔派遣事業〕）の活用を促進し、小中学校による申請の支援を行う。</p>
28 年 度 の 目 標		<p>1 スクールコンサートの開催（学校巡回公演）</p> <p>2 各種助成制度の活用に向けての情報提供や申請支援</p>
28 年 度 の 実 績		<p>児童・生徒が芸術に触れる機会を提供し、文化活動の振興と文化意識の高揚、観賞機会の拡充に努めた。現事業の継続的な実施とともに、児童・生徒の文化芸術に関する各種助成等の積極的な周知と、申請に関わる支援を行った。</p> <p>1 スクールコンサートの開催（学校巡回公演）</p> <p>(1) 実績 7公演9校</p> <p>ア 鑑賞者 1,491人（児童、生徒、保護者等）</p> 
教 育 委 員 会 の 評 価		<p>事業の助成制度の積極的な活用がうかがわれた。</p> <p>スクールコンサートについては、児童・生徒の反響も良く、学校サイドからの評価も高く、今後も継続して事業の周知や開催の援助を続けていくべき事業と考える。</p>

教育委員会自己点検・評価表

No. 68

点 検 ・ 評 価 項 目		
浜 田 市 教育振興計画 における項目	施策の柱	V 歴史・文化の伝承と創造
	主要施策	(2) 伝統文化の保存と継承
		伝統文化
具 体 的 取 組	① 伝統文化の保存と継承	
担 当 課	文化振興課	
内 容	<p>地域で受け継がれてきた石見神楽や田囃子等、各団体が行う伝統芸能の事業について、事業後援や補助金を交付し活動を支援する。</p> <p>また、伝統芸能を保存・継承していくために、各団体が行う後継者育成活動や用具整備等について、文化庁等の各種助成制度活用の申請支援を行う。</p>	
28 年 度 の 目 標	<p>各種支援により、伝統芸能、伝統文化の継承を図る。</p> <p>団体の活動状況の把握、伝統文化活動等の周知・情報発信等を行い、伝統文化の継承を図る。</p>	
28 年 度 の 実 績	<p>文化庁が助成する「文化遺産を活かした地域活性化事業」を通して、石見神楽をはじめとする地域の文化遺産普及啓発を目的とした事業実施をすることとしたが、この事業は市町村単位で1事業として申請するため申請件数は1件のみとなった。</p> <p>また、平成26年度からは、文化庁事業として「伝統文化親子教室事業」が新たに定められ、各団体から申請を募った。平成28年度の決定件数は3件（三隅生け花子ども教室、百人一首暗唱教室、浜田市けん玉親子教室）となった。</p>	
教育委員会の評価	<p>文化庁が助成する「文化遺産を活かした地域活性化事業」については、実行委員会を組織して実施し、申請数は1件。「伝統文化親子教室事業」は3団体から申請があり、両事業とも助成決定となっている。</p> <p>今後とも、一般財団法人地域創造が行う「地域の文化・芸術活動助成事業」「地域伝統芸能継承者（青少年等）育成事業」などに組み込まれている伝統文化継承事業の積極的な運用を図るため、関係諸団体への周知ほか申請に係る支援を図る必要がある。</p>	

教育委員会自己点検・評価表

No. 69

点 検 ・ 評 価 項 目		
浜 田 市 教育振興計画 における項目	施策の柱	V 歴史・文化の伝承と創造
	主要施策	(3) 文化財の調査・保存と活用
		文化財保護
具 体 的 取 組	① 文化財の収集・保存	
担 当 課	文化振興課	
内 容	<p>浜田固有の地域財産である文化財を網羅的に収集、把握し、調査研究を図るとともに、その成果を蓄積することで、情報提供等の活用が円滑に図られるように努める。</p> <p>また、特に重要な文化財については指定し、後世に伝える。</p>	
28 年 度 の 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1 専門機関等への協力や調査研究の充実 2 調査研究成果の蓄積 3 文化財指定の推進 	
28 年 度 の 実 績	<ol style="list-style-type: none"> 1 専門機関等との協力・共同調査業務 <ol style="list-style-type: none"> (1) 伝統的生活文化実態調査（文化庁文化財部伝統文化課） (2) 島根県近代和風建築総合調査（島根県文化財課） (3) 近世・近代の石見焼の研究（島根県古代文化センター等） (4) 石見の中世領主の盛衰と東アジア海域世界の研究（島根県古代文化センター等） (5) 近代和風建築復元研究（米子工業専門学校） 	
教育委員会の評価	<p>専門機関との連携を図る等、文化財に対する情報収集とその蓄積が図られた。こうした調査の中で、未指定文化財の候補の選択、具体的な調査・研究について検討する必要がある。</p> <p>未だ市指定文化財のない旭・弥栄自治区において、文化財指定に向けた調査・研究を進める必要がある。</p>	

教育委員会自己点検・評価表

No. 70

点 検 ・ 評 価 項 目		
浜 田 市 教育振興計画 における項目	施策の柱	V 歴史・文化の伝承と創造
	主要施策	(3) 文化財の調査・保存と活用
		文化財保護
具 体 的 取 組	② 文化財の活用	
担 当 課	文化振興課	
内 容	文化財の調査研究成果を基に活用を図り、子どもたちをはじめ、市民の方々が郷土への愛着や誇りが持てるように取り組むとともに、浜田の歴史・文化に関する市内外からの照会等に対して、情報提供等の協力、支援を行う。	
28 年 度 の 目 標	文化財の調査研究成果を基に各種情報媒体への協力、支援を含め、文化財情報の公開と発信を進めることにより、市民の方々が郷土への愛着や誇りを持てるようにする。	
28 年 度 の 実 績	<ol style="list-style-type: none"> 1 照会対応業務 次の業務等に対応した。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 太平洋戦争における空襲被害について (2) 松平周防守家、松平右近将監家について 2 各種研修会等における歴史・文化の普及 20回 学校、公民館、地域の団体等において14回の浜田市の歴史・文化に関する講演等を行った。 3 総合的な学習・社会科見学等への協力 <ol style="list-style-type: none"> (1) 浜田郷土資料館 小学校4校 (2) 金城資料館 小学校3校 (3) 三隅歴史民俗資料館 小学校2校 	
教育委員会の評価	<p>各照会業務の内容を蓄積し、将来的な情報提供への準備を行なうことができた。</p> <p>市内外からの講演会に対する講師派遣により、浜田市の歴史・文化の普及を図ることができた。各地域の細かな文化財へ説明も求められており、より詳細な文化財の調査と情報整理を進める必要もある。</p>	

教育委員会自己点検・評価表

No. 71

点 検 ・ 評 価 項 目		
浜 田 市 教育振興計画 における項目	施策の柱	V 歴史・文化の伝承と創造
	主要施策	(3) 文化財の調査・保存と活用
		文化財保護
具 体 的 取 組	③ 各指定文化財の管理	
担 当 課	文化振興課	
内 容	<p>貴重な文化財を保護し、将来にわたって保護、活用が図られるように、行政、所有者、地域が一体となって管理に努める。 また、ユネスコの無形文化遺産である石州半紙の伝承を図るため、石州半紙技術者会と連携して後継者育成に努める。</p>	
28 年 度 の 目 標	<p>文化財が市民共有の財産であるという意識を高め、文化財所有者、地域と連携し、指定文化財が将来にわたって保護、活用が図られるよう努める。</p>	
28 年 度 の 実 績	<ol style="list-style-type: none"> 1 指定文化財12件に対し、所有者の申請に基づき補助金を交付し、保護管理を行った。また、市が管理団体のものは、所有者と協力し、保護管理を行った。 2 1月25日(水)に浜田自治区の文化財を対象とし、洞泉寺・心覚院・龍泉寺・多陀寺において、文化財防火デーパトロールを行った。 3 石州半紙技術者会への補助金、定例会参加により技術の伝承・後継者育成についての協力を行った。 	
教育委員会の評価	<p>毎年継続して文化財防火デー関連事業を実施することにより、文化財所有者に対して、文化財保護の強化と周知を図ることができた。 指定文化財への補助金支出により、文化財の保護と管理を行うことができた。 石州半紙技術者会へは長期的な連携と支援により後継者育成と技術継承に協力する必要がある。</p>	

教育委員会自己点検・評価表

No. 72

点 検 ・ 評 価 項 目		
浜 田 市 教育振興計画 における項目	施策の柱	V 歴史・文化の伝承と創造
	主要施策	(3) 文化財の調査・保存と活用
		調査研究
具 体 的 取 組	④ 市内遺跡発掘調査事業	
担 当 課	文化振興課	
内 容	<p>計画的に分布調査や発掘調査等を実施することにより、埋蔵文化財を把握し、各種開発事業との円滑な調整を図る。 また、遺跡台帳を整備し、基本情報の取得が容易に行えるように取り組む。</p>	
28 年 度 の 目 標	<p>計画的な調査により、埋蔵文化財の把握に努め、浜田市内の各種開発事業との円滑な調整を行う。 また、調査成果を公開し、活用を図る。</p>	
28 年 度 の 実 績	<ol style="list-style-type: none"> 1 浜田市内の各種開発事業の申請に基づき、23件の分布調査を実施し、状況により工事中の立会を行った。市内の石造物を中心とした分布調査を行い、基本情報の整理を行った。 2 三隅益田道路整備事業に関しては、島根県教育委員会の実施する発掘調査に情報提供などの協力を行った。 3 これまでの調査結果をまとめた報告書を刊行し公共機関・図書館等に配布した。 	
教育委員会の評価	<p>各事業の開発事業者と十分な協議を重ね、文化財保護と他の公益との円滑な調整を図ることができた。 また、全自治区において計画的な分布調査を実施・更新することにより、紙媒体及びインターネットでの情報を整理した。開発事業者等が埋蔵文化財の位置などの基本情報の取得が容易に行えるようにした。</p>	

教育委員会自己点検・評価表

No. 73

点 検 ・ 評 価 項 目		
浜 田 市 教育振興計画 における項目	施策の柱	V 歴史・文化の伝承と創造
	主要施策	(3) 文化財の調査・保存と活用
		調査研究
具 体 的 取 組	⑤ 市誌編纂事業	
担 当 課	文化振興課	
内 容	市誌編纂時の効率的な編集・作成に備え、散逸する資料の収集、整理に努めている。	
28 年 度 の 目 標	市誌編纂時の効率的な編集・作成に備え、全市的な資料の収集、整理、調査研究を行い、その成果を活用していくとともに、広く情報発信を行う。	
28 年 度 の 実 績	1 石見地域に関する文書の収集と整理 (1) 近世史関係 ア 三隅・嶺大橋家文書目録作成 イ 三隅・大賀家文書目録作成 ウ 長濱・盆屋山根家文書目録作成 エ 桑原韶一氏蔵文書（資料コピー分）目録作成 オ 桑原韶一氏蔵文書（谷田家文書）目録作成 カ 宇野屋俵家文書目録作成 キ 埼玉県川越市図書館・博物館資料調査（松平周防守家関係） ク 旭歴史民俗資料館所蔵古文書の目録作成	
教育委員会の評価	専門の嘱託職員を1人配置し、近世を中心として着実な資料収集が図られた。 浜田市誌編纂事業の調査結果を図書館レファレンスに反映させ、引き続き研究成果を広く発信する準備を行なった。 また、古文書の寄附が相次いでいるため、当面の目録作成業務が増加している。より計画的な事業実施に努めるとともに、市誌編纂に向けた方向性を検討していく必要がある。	

教育委員会自己点検・評価表

No. 74

点 検 ・ 評 価 項 目		
浜 田 市 教育振興計画 における項目	施策の柱	V 歴史・文化の伝承と創造
	主要施策	(4) 地域文化の交流拠点づくり 浜田城周辺整備
具 体 的 取 組		① (仮称) 浜田歴史神楽資料館整備事業
担 当 課		文化振興課
内 容		資料館については、現在、6施設が設置されているが、効果的な施設管理、運用を図るため、再配置計画を検討するとともに、平成31年に迎える浜田開府400年記念を契機に、浜田全体の歴史、文化を紹介する資料館整備を検討する。
28 年 度 の 目 標		1 既設資料館の再配置について検討する。 資料館の在り方について附属機関の審議を踏まえながら、方向性を検討する。 2 (仮称) 浜田歴史神楽資料館整備について検討する。 「浜田城周辺整備検討会」において行なわれている資料館の在り方や内容に関する審議を踏まえながら検討する。
28 年 度 の 実 績		1 既存資料館の再配置に関する検討 資料館の現状把握や今後の在り方について、平成25年度から浜田市文化財審議会と浜田市資料館運営協議会で議論を行い、本年度に諮問し、答申を受けた。答申では浜田郷土資料館、旭歴史民俗資料館、三隅歴史民俗資料館、弥栄郷土資料展示室の4施設を1施設に統廃合し、金城民俗資料館、金城歴史民俗資料館の2施設を1施設に統廃合する方向性が示された。 2 (仮称) 浜田歴史神楽資料館整備に関する検討 資料館整備については、関係部署と調整、検討を図りながら「浜田城周辺整備検討会」において議論し、(仮称) 浜田歴史資料館整備(案)を作成して、市民や議会等の関係機関とも意見交換を行ったが、十分な理解を得ることができなかった。
教育委員会の評価		既存資料館の再配置については、附属機関の意見を踏まえながら方向性について取り纏めることができたが、今後の具体的な在り方については、資料館整備とも関連し、内容や年度計画を示すことができていない。 資料館整備については、整備案を示し、議論や意見交換を行い、平成29年度の事業計画を提示したが、十分な理解を得ることができなかったため、改めて整備について見直しを図る必要性が生じた。

教育委員会自己点検・評価表

No. 75

点 検 ・ 評 価 項 目		
浜 田 市 教育振興計画 における項目	施策の柱	V 歴史・文化の伝承と創造
	主要施策	(4) 地域文化の交流拠点づくり
		浜田城周辺整備
具 体 的 取 組	② 浜田城周辺整備事業	
担 当 課	文化振興課	
内 容	平成31年に迎える浜田開府400年記念を契機に浜田城周辺を整備することにより、子どもたちをはじめ、市民や観光客が浜田に対して愛着や誇りがもてるように環境づくりを図る。	
28 年 度 の 目 標	浜田城及び周辺を整備して公園としての環境づくりを行なうため、関係部署と調整、検討を図り、平成27年度に引続き、浜田城周辺整備基本方針（城山公園整備）に基づき、「浜田城周辺整備検討会」で議論するとともに、保安林や県立自然公園、県指定文化財等の関係法令手続きを進める。	
28 年 度 の 実 績	<ol style="list-style-type: none"> 1 浜田城周辺整備基本方針（城山公園整備）に基づく具体的な工事設計の調整 関係課と工事設計を行なうために、関係法令を所管する機関との調整を図りながら具体化した。 2 保安林について 関係機関と協議して、許可が受けられるように調整を図った。 3 県立自然公園について 関係機関と協議して、許可が受けられるように調整を図るとともに、城山内の動植物について、専門家や地元愛好家とも相談し、影響が生じないよう整備計画の修正や保護対策の確認等を行なうことで自然環境調査に協力した。 4 県指定文化財及び埋蔵文化財について 城山に展開する浜田城の遺構を保護するため、浜田城の保存管理及び活用の方向性について整理し、県指定文化財から国指定文化財にできるよう検討を進めた。また、整備によって遺構が壊されないように発掘調査に着手した。 	
教育委員会の評価	<p>浜田城周辺整備基本方針（城山公園整備）については、関係部署と連携を図りながら「浜田城周辺整備検討会」の議論やパブリックコメントを行なっているほか、浜田市文化財審議会や浜田市資料館運営協議会とも協議を行い事業を進めている。</p> <p>また、本事業を円滑に進めるため、関係法令の所管機関との調整を図っている。特に文化財の取扱いについては、浜田城の保護、管理を将来的にも行なっていくために、県教育委員会と国指定化に向けた協議も進めることができた。さらに、発掘調査の着手は、本事業との調整のみでなく、浜田城の学術的評価にも関連するものである。</p>	

3. 浜田市教育振興計画の目標達成度について

3 浜田市教育振興計画の目標達成度について

I 学校教育の充実

(1) 生きる力の育成

(学校教育課)

目標	計画時	28年度	29年度	30年度	32年度	33年度
「総合的な学習の時間」で学習したことが普段の生活や社会に出たときに役立つと思う子どもの割合の増加	小6 98.5%	小6 79.7%				
	中3 74.1%	中3 71.6%				
	目標値	小6 90.0%, 中3 80.0%				
	目標の説明	全国学力・学習状況調査による肯定率				
「総合的な学習の時間」において、自分で調べ学習活動に取り組んでいると思う子どもの割合の増加	小6 57.7%	小6 67.3%				
	中3 52.7%	中3 60.3%				
	目標値	小6 65.0%, 中3 60.0%				
	目標の説明	全国学力・学習状況調査による肯定率				

(2) 一人ひとりを大切にする教育の推進

(学校教育課)

目標	計画時	28年度	29年度	30年度	32年度	33年度
自分には良いところがあると思っっている子どもの割合の増加	小6 79.1% (76.1%)	小6 75.6% (76.3%)				
	中3 73.9% (67.1%)	中3 71.6% (69.3%)				
	目標値	小6 86.0%, 中3 77.0%				
	目標の説明	全国学力・学習状況調査による肯定率(括弧内は全国平均値)				

(3) 食育と体づくりの推進

(教育総務課)

目標	計画時	28年度	29年度	30年度	32年度	33年度
学校給食での地域食材利用率の増加	58.2%	70.9%				
	目標値	70.0%				
	目標の説明	市内小中学校の給食における地元食材利用率				

II 家庭教育支援の推進

(1) 家庭教育支援の充実

(生涯学習課)

目標	計画時	28年度	29年度	30年度	32年度	33年度
親学プログラムの実施回数 の増加	11回	17回				
	目標値	25回				
	目標の説明	親学プログラムを活用した学習機会の提供回数				

III 社会教育の推進

(1) ふるさと郷育の推進

(生涯学習課)

目標	計画時	28年度	29年度	30年度	32年度	33年度
ふるさと郷育ネットワーク 団体数の増加	3団体	8団体				
	目標値	9団体				
	目標の説明	中学校区でふるさと郷育を協議するネットワーク団体の数				
学校支援活動に参加したボ ランティア人数の増加	7,528人	6,836人				
	目標値	8,500人				
	目標の説明	学校支援地域本部事業のボランティアの延べ参加者数				

(2) 公民館における人材育成と拠点整備事業

(生涯学習課)

目標	計画時	28年度	29年度	30年度	32年度	33年度
地域課題の解決支援事業を 実施する公民館数の増加	3公民館	17公民館				
	目標値	26公民館				
	目標の説明	「地域課題の解決支援事業」に取り組む公民館の数				

(3) 図書館サービスの充実

(中央図書館)

目標	計画時	28年度	29年度	30年度	32年度	33年度
図書館利用登録率の増加	34.3%	36.3%				
	目標値	40.0%				
	目標の説明	市民の図書館利用者カード登録者の割合				
市民一人当たりの図書貸出冊 数の増加	5.0冊	5.4冊				
	目標値	7.0冊				
	目標の説明	市民一人当たりの年間の図書貸出冊数				

IV 生涯スポーツの振興

(1) スポーツ・レクリエーション活動の推進

(生涯学習課)

目標	計画時	28年度	29年度	30年度	32年度	33年度
総合スポーツ大会参加者の増加	2,623人	2,397人				
	目標値	4,000人				
	目標の説明	総合スポーツ大会への年間参加者の数				

(2) スポーツ精神の高揚と競技力の向上

(生涯学習課)

目標	計画時	28年度	29年度	30年度	32年度	33年度
トップアスリート教室の開催回数 の増加	2回	3回				
	目標値	4回				
	目標の説明	トップアスリートによる教室の年間開催回数				

(3) スポーツ・レクリエーション環境の整備

(生涯学習課)

目標	計画時	28年度	29年度	30年度	32年度	33年度
軽スポーツ教室の開催回数 の増加	6回	12回				
	目標値	12回				
	目標の説明	市が主催する軽スポーツ教室の年間開催回数				

V 歴史・文化の伝承と創造

(1) 芸術・文化の振興

(文化振興課)

目標	計画時	28年度	29年度	30年度	32年度	33年度
石央文化ホール利用者数の増加	51,560人	56,374人				
	目標値	55,000人				
	目標の説明	石央文化ホールの年間利用者数				
市内美術館における創作活動等の受講者数の増加	9,763人	10,082人				
	目標値	10,000人				
	目標の説明	市内美術館でワークショップ、創作活動、講座等によって芸術に触れる人数				

(3) 文化財の調査・保存と活用

(文化振興課)

目標	計画時	28年度	29年度	30年度	32年度	33年度
文化財の指定・ 登録件数の増加	66件	66件				
	目標値	70件				
	目標の説明	国、県、市が指定した文化財の件数				